nichicon

取扱説明書

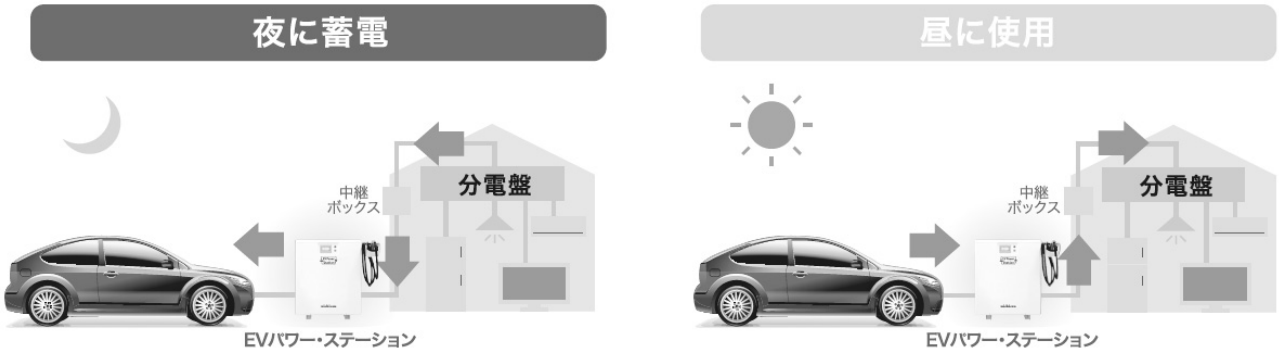
ＥＶパワー・ステーション
高機能モデル
ZHTP1900R

このたびは、EVパワー・ステーションをお買い上げいただきまして
誠にありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みいただいたうえで、正しくお使いください。
また、保証書とともに大切に保管してください。

TP1609RMNL01004

「街中を走る」から「家庭で使う」へ

この製品は、電気自動車（車両）と家庭をつなぐ Vehicle to Home システムにより、
車両の大容量バッテリーから電力を取り出し、暮らしに必要な電力を供給する給電機能、および、
車両への充電機能を備えた「EVパワー・ステーション」です。



- 充電可能車両
  CHAdeMO（急速充電器の共通仕様）準拠の車両が対象となります。
- 給電可能車両
  給電対応を施した電気自動車（EV）、燃料電池自動車（FCV）、プラグインハイブリッド車が対象となります。
  ※FCVをご利用のお客様は「FCVご利用のお客様へ」(→40～43 ページ)をご確認ください。

※但し、車両側の仕様によっては、充電・給電が困難な場合や一部機能が制約される場合があります。

目次

安全のために必ずお守りください……7
取扱上のお願い……9
設置上のお願い……10
給電時に使用する電気機器について……11
　電気機器の消費電力が定格出力を超えたら……11
　ご使用に注意が必要な電気機器……12
各部の名前と働き……13
　本体……13
　中継ボックス……14
　充放電コネクタ……15
　トランスユニット（高機能モデル）……16
　室内リモコン……16
タッチパネルの画面表示について……17
　基本的な画面表示の構成……17
　ホーム画面表示……18
車両との接続方法……19
　車両に接続する……19
　車両から取り外す……21
手動操作する……23
　充電する前に……23
　充電を開始する(タッチパネルを使用する場合)……23
　充電を停止する(タッチパネルを使用する場合)……24
　充電を開始する(本体前面のボタンを使用する場合)……24
　充電を停止する(本体前面のボタンを使用する場合)……25
　給電する前に……25
　給電を開始する……25
　給電を停止する……26
タイマー予約操作をする……27
　充電タイマーを設定する……27

タイマー充電中に充電を停止する 28
タイマー設定時間中に再充電する 28
タイマー給電する前に 29
給電タイマーを設定する 29
タイマー給電中に給電を停止する 30
タイマー設定時間中に再給電する 30
タイマー予約の優先度 31
車両から操作する（EV優先設定） 32
車両からの操作を開始する 32
車両からの操作の優先度 33
日産 車両から操作する（EV-IT） 34
車両からの操作の取り消し方 35
停電時に使用する 36
車両への充電中に停電したら 36
車両から給電中に停電したら 36
待機中に停電したら 36
停電時に給電する前に 36
停電時に給電を開始する 37
停電時に給電を停止する 38
停電時に使用する場合の注意事項 38
待機中に停電が復旧したら 38
車両から給電中に停電が復旧したら 39
FCVをご利用のお客様へ 40
FCVとの接続方法 41
車両に接続する 41
車両から取り外す 41
手動操作する 42
給電する前に 42
給電を開始する 42
給電を停止する 43
設定する 44
システム設定画面に切り替える 44

充電設定(満充電設定) 45
給電設定(最低確保充電率設定) 46
自動復電設定 47
パスワード設定 48
パスワード有効時の操作 49
パスワード設定を忘れた場合 49
音関連設定 50
時刻設定 50
時計歩度調整 51
EV優先設定 52
データを表示する 53
その他の操作 54
電源を入れる 54
電源を切る 54
非常停止する 54
非常停止から復帰する 55
システムリセットをする 55
こんなときは 56
コネクタがロックできない 56
コネクタが取り外せない 56
充電できない 56
充電時間が長い・充電電力が小さい 56
充電時にアンペアブレーカが頻繁に落ちる 57
設定通りに充電が止まらない 57
満充電にならずに充電が止まる 57
満充電設定していないのに満充電になる 57
給電できない 57
給電が停止する 58
電気機器の動作が不安定になったり、停止したりする 58
車両 からの給電時に、LED 照明がちらつく 59
充電・給電操作をしてから実際に動作するまでに時間がかかる 59
給電中なのに電力メーターが動いている 59

機器から異音が発生する 59
パスワードを忘れた 59
タッチパネルの表示が見えにくい 60
中継ボックスのブレーカが ON できない 60
停電を検知しました と表示されたとき 60
停電中及び復旧後 5 分間は給電停止できません と表示されたとき 60
エラーメッセージが表示されたとき 60
充放電コネクタを本体または車両に固定する 62
しばらく使用しないとき 62
風水害または地震時の対応 62
点検とお手入れ 63
フィルターの交換 63
内蔵電池の交換 64
保証とアフターサービス 65
保証について 65
アフターサービスについて 65
製品に関するお問い合わせ 65
機器仕様 66
機器外観図 69

安全のために必ずお守りください

■ ご使用の前に、この「安全のために必ずお守りください」をよくお読みの上、正しくお使いください。
■ 個々に示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、お守りください。
■ お読みになられた後も、ご利用される方がいつでも参照できるところに保管ください。

ここに示した事項は、⚠ **警告**、⚠**注意**に区分しています。

⚠	**警告**	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠	**注意**	取り扱いを誤った場合、使用者がけがを負う危険が想定される内容、及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示については、次のような意味があります

	＊アース線を接続する 安全アース端子付きの機器の場合、使用者にアース線を接続するように指示する表示		**＊感電注意** 特定の条件に於いて、感電の可能性を注意する通告
	＊一般的な禁止 特定しない一般的な禁止の場合		**＊分解禁止** 機器を分解することで感電などの事故が起こる可能性がある場合の禁止の通告
	＊一般的な指示 特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示		

⚠ 警告

本体・中継ボックス・トランスユニット

カバーを開けない
内部に電圧の高い部分があります。感電の原因となります。

分解、改造をしない
感電やけがを負う可能性があります。

コネクタの金属接点に触れない
高い電圧が加わり、感電の可能性があります。

濡れた手でコネクタを扱わない
感電の原因となることがあります。

取付工事・修理・移動・再設置・破棄はお買い上げの販売店に依頼する
不備があった場合、感電や火災の可能性があります。

お子様に操作をさせないでください
感電、やけど、火災の可能性があります。

降雪時は本体および、周辺への積雪(1m以内)を避け、吸排気口などを塞がないようにする
機器が変形したり、内部が加熱し、故障の原因となります。

ケーブルを踏んだり、上に物を置いたり、引きずったりしない
ケーブルが損傷し、火災や感電の原因となります。

人命に直接かかわる医療機器などは接続しない
身体の安全を損ねる場合があります。

植込み型心臓ペースメーカ及び植込み型除細動器(ICD)を使用している方は、機器本体部からの電磁波が、ペースメーカ及びICDの作動に一時的な影響を与える場合がありますので次のことをお守りください。
・充電中、給電中の本製品に近づかないでください。
・本製品を操作する必要がある場合は、他の方にお願いしてください。(使用しないでください。)
・尚、不用意に近づいた場合には、立ち止まらずに速やかに離れてください。詳しくは、一般社団法人日本不整脈デバイス工業会(http://www.jadia.or.jp)に記載されております。

⚠ 警告

本体・中継ボックス・トランスユニット

給電の切り替え時（車両⇔系統）や、充電開始時に中継ボックスより作動音がするので注意する
比較的大きな音がするので心臓の弱い方は注意してください。

本体を蹴るなど強い衝撃を与えない
変形して短絡し、発熱、発火、破壊、火災の可能性があります。

本体の上に乗ったり、座ったり、ぶら下がったり、物を載せない
装置が変形し、脱落し、けが・感電・故障の原因となります。

可燃性ガスや引火物を近くに置かない（60cm以内）
電気部品のスパークで漏れたガスや引火物などに引火する可能性があります。

コネクタに無理な力を加えない
コネクタが損傷し、故障や感電の原因となります。

煙が出たり、異臭がする場合は、すぐに中継ボックスのブレーカを「OFF」にする
そのまま使用すると、火災の原因となります。お客様相談室にご連絡ください。

充電、給電以外の用途に使用しない
火災・感電・故障の原因となります。

シンナー、ベンジン、アルコールなどの薬品を本体に吹き付けない
機器内部に侵入すると故障、発煙発火の原因になることがあります。

殺虫剤などを吹きかけない
機器内部に侵入すると故障、発煙発火の原因になることがあります。

⚠ 注意

本体・中継ボックス・トランスユニット

濡れた手で触れたり、濡れた布でふかない
感電の原因となることがあります。

雷が鳴り出したときは、車両や本体に触れない
落雷による感電などの可能性があります。

アース工事を行う（D種接地工事）
アース工事は、設置業者の方にて施工をお願いします。お客様がアースを変更することはせず、必要な場合は、設置業者の方に依頼してください。
アース工事が不完全な場合、感電の可能性があります。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。

洗車時の洗剤や高圧水が本製品にかからないようにする
内部に水分などが侵入し、故障や感電の原因となることがあります。

防犯や安全にかかわる機器を接続しない
・ホームセキュリティを接続した場合、何らかの原因でご家庭のブレーカが落ちると、セキュリティ会社に連絡が入ります。
・電子錠を接続した場合、給電の切り替え時（車両⇔系統）や停電時に動作する可能性があります。

雷が鳴り出したら、コネクタ付きケーブルを車両から引き抜くとともに、中継ボックスのブレーカをOFFにする
本体や車の思わぬ故障につながる可能性があります。

近くで殺虫剤などの可燃性ガスを使用しない
引火し、やけど・火災の原因となることがあります。

お子様の手の届くところで使わない
思わぬ事故の原因となります。

トランスユニットのケース表面に触れない
ケース表面が高温になり、やけどの原因となる場合があります。

取扱上のお願い

本体・中継ボックス・トランスユニット	
	取扱説明書を熟読する ご使用される前には、取扱説明書や製品の注意書きをよくお読みになり、正しくご使用ください。
	1年に一度、フィルターの交換を行う 性能維持のため1年に一度、フィルターの交換を行ってください。
	5年に一度、本体内蔵の鉛蓄電池の交換を行う 性能維持のため5年に一度、鉛蓄電池の交換を行ってください。電池交換に関するお問い合わせは、お客様相談室にお願いします。
	塩分や融雪剤などの除去を行う 性能維持のため、付着した塩分や融雪剤などを除去するために定期的に本体を軽く水洗いしてください。
	不使用時は、コネクタをコネクタホルダに収納して保管する 潮風や融雪剤などを避けることで、サビの発生時期や進行を遅らせることができます。
	シンナー、ベンジン、アルコールなどの薬品を含んだ布でふかない 装置の変色の原因となります。
	装置の近くでテレビやラジオなどを使用しない テレビの画面が乱れたり、ラジオに雑音が入ることがあります。3m以上離してご使用ください。 受信している電波の弱い場所では電波障害を受ける可能性があります。
	PLC（電力線通信）を使用しない 通信に障害を与えたり、本機が正常に動作しない可能性があります。
	高圧水での洗浄はしない。また、吸気口や排気口から水を入れない 故障や事故が発生する可能性があります。
	タッチパネルにお湯をかけるなどの急激な温度変化を与えない タッチパネルが故障する場合があります。
	雪吹込み防止フードを取り外さない（寒冷地仕様品） 本体内部に雪が入りやすくなり故障する場合があります。
	廃棄処理・リサイクルについて 本機には密閉型鉛蓄電池を使用しています。廃棄・リサイクルに関するお問い合わせは、お客様相談室にお願いします。

設置上のお願い

本体・中継ボックス・トランスユニット
本体はコンクリートで養生したところに設置する 雑草などが本体内に入り込むと、動作不良、故障、発煙発火の原因になることがあります。
本体は風通しの良い日陰に設置する 本体の温度が上昇し、本来の性能を発揮できない可能性があります。
設置の際は本体を水平に設置し、アンカーで固定する 本体の転倒により、故障や思わぬ怪我の原因になることがあります。
道路からできるだけ離して設置する 道路から巻き上げられたしぶきや融雪剤が内部に侵入し、本体の寿命を縮める可能性があります。
指定の設置業者に設置を依頼する 指定設置業者以外で設置したり、個人で設置した場合は、保証の対象外となります。
塩害地域や温泉地などに設置する場合は、あらかじめ設置業者などに相談する 塩霧や腐食性ガスの影響で本体が腐食し、寿命を縮める可能性があります。
移設等で機器を一時保管される場合は屋内(湿気の少ないところ)に保管する
次のような場所には取り付けない ・ 住宅の居間・寝室・書斎のような騒音について厳しい制約をうける場所の近く ・ 標高2000mより高いところ ・ 揮発性、可燃性、腐食性及びその他の有害ガスのあるところ ・ 振動、衝撃の影響が大きいところ ・ 油蒸気のあるところ ・ 浸水の可能性のあるところ、水はけの悪いところ。 ・ 電界の影響が大きいところ ・ 重塩害地域 ・ 潮風や融雪剤飛沫に直接さらされるところ 極力建物の風下に設置してください。やむを得ず海岸面や融雪剤散布側に本体を据付ける場合でも、防風板等を設置し、直接潮風や融雪剤飛沫が当らないよう設置する。 ・ 雪の吹きさらしとなるところ ・ 落雪の影響を受けるところ ・ 降雪により吸気口・排気口がふさがるところ ・ 結露および氷結のあるところ ・ 直射日光が当たり高温になるところ ※次の温度範囲外のところでは動作が保証されません 温度:－10℃～＋40℃ (寒冷地仕様は －30℃～＋40℃) ※ケース表面が高温になる場合がありますので、やけどにご注意ください。

給電時に使用する電気機器について

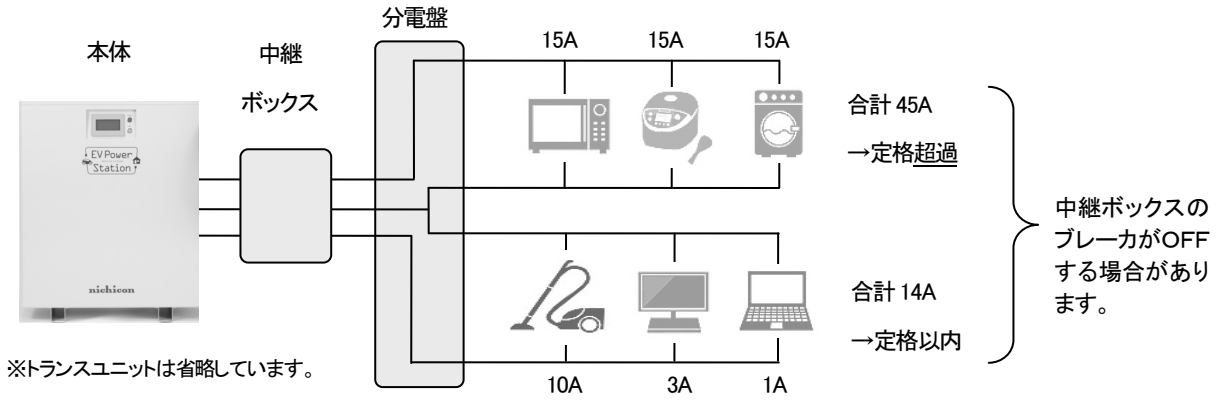
車両から給電を行う場合は、本製品の定格出力範囲内でご使用ください。定格出力を超える負荷を使用されると、車両からの給電が停止する場合があります。そのため、ご使用時に注意が必要な電気機器があります。

電気機器の消費電力が定格出力を超えたら

車両から給電時、電気機器の消費電力の合計が本製品の定格出力(「本体仕様」の給電部出力電流値)(→66 ページ)を超えると、保護回路が動作し、自動的に車両からの給電を停止します。

- 保護回路が動作すると自動的に系統に切り替わります。約 10 分後に、電気機器の使用電力が、定格出力を下回っていれば、自動的に車両からの給電を再開します。
- 定格出力を超えて給電を継続すると中継ボックス内のブレーカがOFFし、宅内が一時的に停電する場合があります。
- 停電時に車両から給電している状態で保護回路が動作した場合、停電復旧が確定するまで 10 分後の自動的な再給電は行いません。

本製品は 2 系統の出力を有しています。どちらか一方が定格出力を超えると、他方が定格出力内であっても、中継ボックス内のブレーカが OFF する場合があります。また、2 系統の合計が定格出力を超えると保護回路が動作します。



起動時に大きな電力を消費する電気機器があります。この場合にも保護回路が動作する場合があります。

ご使用に注意が必要な電気機器

- 電気機器の合計消費電力が本製品の定格出力を超え、保護回路が動作する際、一時的に電圧が低下し、電気機器の動作が不安定になったり、停止したりする場合があります。
- 途中で電源が切れると困る機器、起動時に大きな電力を消費する機器、消費電力が大きな機器を使用される場合はご注意ください。
- 注意が必要な機器の例

家電製品の種類	対処・動作	製品例
途中で電源が切れると困る電気機器	接続禁止	医療機器
	接続注意	録画機器 デスクトップ型パソコンなど電源が切れると故障の可能性がある機器
起動時に大きな電力を消費する電気機器	動作しない場合がある	家庭用エレベーター、掃除機、遠赤外線ヒータ、井戸水ポンプ、業務用複合機、暖房温水便座、高圧洗浄機、 大型ブラウン管テレビなど
消費電力が大きい電気機器	動作しない場合がある	炊飯器、電子レンジ、 IH クッキングヒータ、エアコンなど

- 電気使用量の大きい電気機器の参考データ

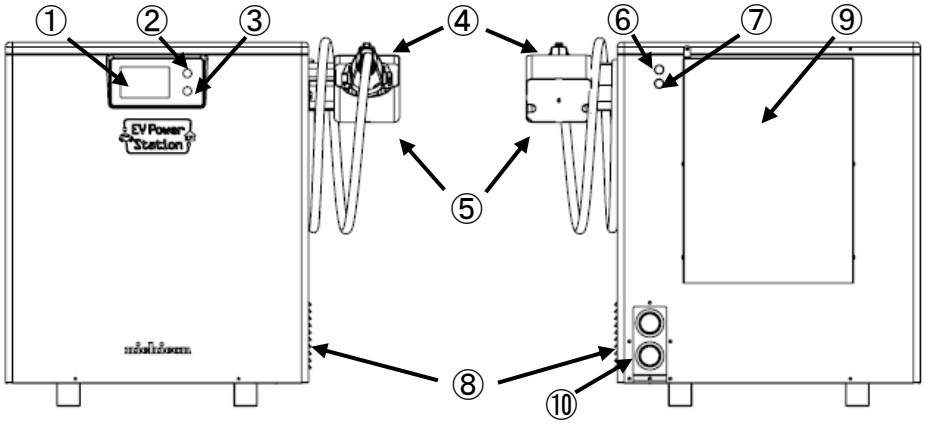
  電子レンジ 1,000 ～ 1,200W（10～12A）
  卓上 IH クッキングヒータ 1,000W（10A）
  掃除機 1,000W（10A）
  液晶 TV 200W（2A）
  冷蔵庫 150W（1.5A）

- 電気機器の消費電力については、電気機器の取扱説明書を確認、またはメーカーにお問い合わせください。
- 人命に直接かかわる医療機器など、瞬時停電があると事故または支障のある電気機器は絶対に接続しないでください。

各部の名前と働き

本体

充電ユニット、インバーターユニットで構成され、車両 への充電、家庭への給電の切り替えを制御します。



前面　　背面

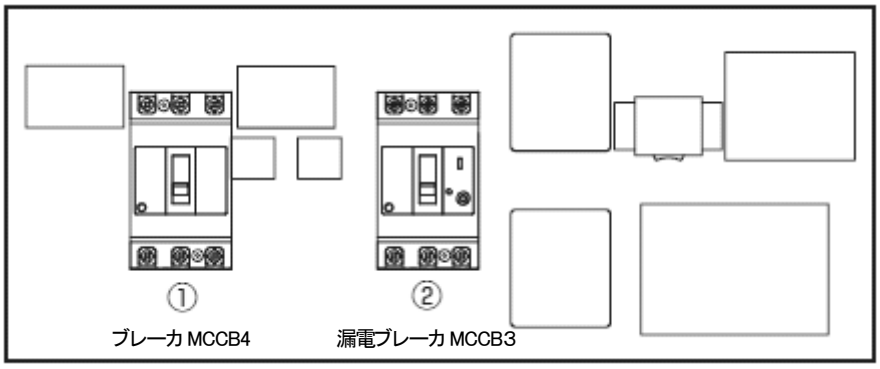
①	タッチパネル	表示画面を兼ねた操作パネルです。 充電・給電状態の表示や各動作モードの設定を行います。
②	[充電開始] ボタン （青色ボタン）	充電動作の指示を行います。
③	[充電停止] ボタン （緑色ボタン）	充電停止の指示を行います。
④	充放電コネクタ（ケーブル含む）	本体と車両を接続します。
⑤	コネクタホルダ	コネクタを収納します。
⑥	[非常停止] ボタン （赤色ボタン）	非常時に充電・給電動作を緊急停止させます。
⑦	[停電復旧] ボタン （黄色ボタン）	停電時に動作が停止した場合に、再起動させます。
⑧	吸気口	本体内部を冷却するための空気を吸い込む口です。
⑨	排気口	本体内部を冷却した空気を排出する口です。
⑩	配線口	配線を通す口です。

※前面ボタンのランプ点灯状態により、本体の状態を知ることができます。

	充電開始ボタン（青）	充電停止ボタン（緑）
待機中	点灯	消灯
充電中	点滅	点灯 （ただし、車両からの操作で動作中は消灯）
給電中	点灯	消灯
車両未接続 未ロック	消灯	消灯

中継ボックス

家庭内分電盤と本体の間に設置され、電力系統と家庭内配電網を切り離し、車両 から家庭への給電を切り替える機能を備えています。
また、使用電力を計測するための電流センサーを配置しています。



①	ブレーカ MCCB4	EVパワー・ステーションからの電力供給（単相 3 線 100V/200V）を行います。
②	漏電ブレーカ MCCB3	EVパワー・ステーションへの電力供給（単相 200V）を行います。

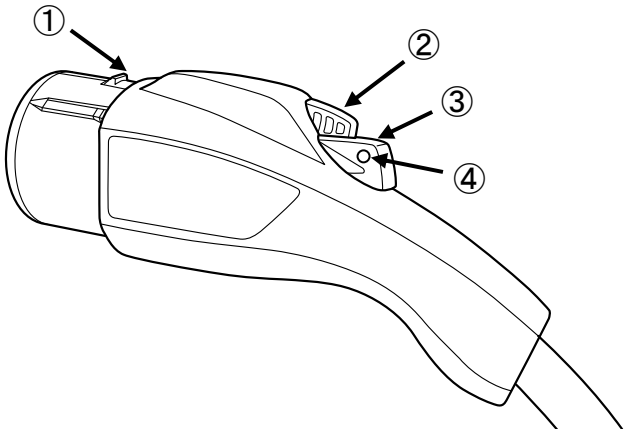
ブレーカの投入、切断の際は以下の順序で操作してください。

ブレーカ投入順 ： ①（MCCB4） → ②（MCCB3）
ブレーカ切断順 ： ②（MCCB3） → ①（MCCB4）

※ 通常運転時は全てのブレーカが「入」の状態です。
※ 中継ボックス内は上記ブレーカ以外には触らないでください。

充放電コネクタ

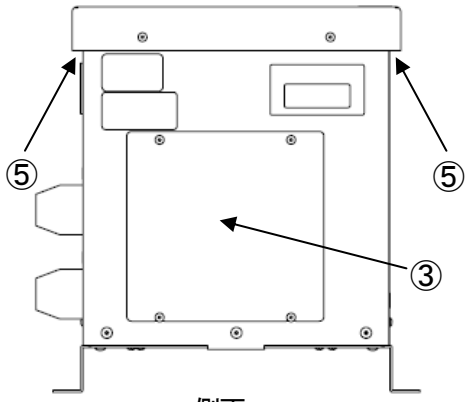
車両の急速充電口に接続するコネクタです。このコネクタを介して車両と電力のやり取り（充電・給電）を行います。



①	ラッチ	車両とコネクタをロックします
②	リリースボタン	固定ボタンとラッチのロックを解除します。 2 段階操作ボタンになっており、1 回目に固定ボタン、2 回目にラッチが解除されます。
③	固定ボタン	ラッチが下がらないように固定するボタンです
④	固定ボタンの穴	穴に錠をすることで、固定ボタンが固定され、いたずらを防止できます。

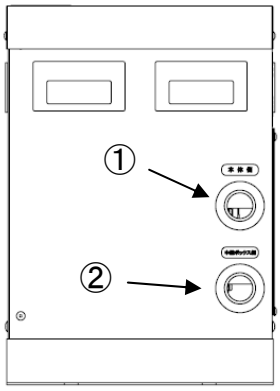
トランスユニット（高機能モデル）

本体と中継ボックスの間に設置することにより、標準モデルと比べて系統への切り替え頻度が減少すると共に、家庭用燃料電池（エネファーム等）との併用が可能になります。

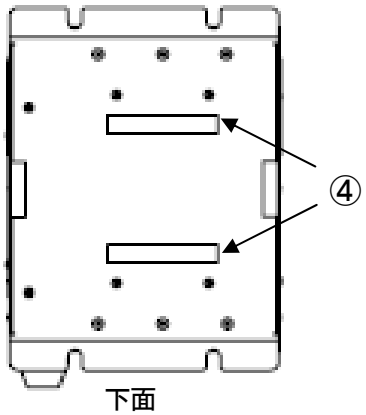


側面

前面



背面



下面

①	配線口（本体側）	トランスユニットと本体をつなぐ配線を通す口です。
②	配線口（中継ボックス側）	トランスユニットと中継ボックスをつなぐ配線を通す口です。
③	配線作業用窓	設置時、配線作業で使用する窓です。
④	吸気口	トランスユニット内部を冷却するための空気を吸い込む口です。
⑤	排気口	トランスユニット内部を冷却した空気を排出する口です。

室内リモコン

無線通信で本体の操作を行うことができるリモコンです。詳細は室内リモコン専用の取扱説明書を参照ください。

タッチパネルの画面表示について

基本的な画面表示の構成

この製品は、本体のタッチパネルの画面をタッチしてさまざまな操作を行います。
画面は次のような構成を基本としています。

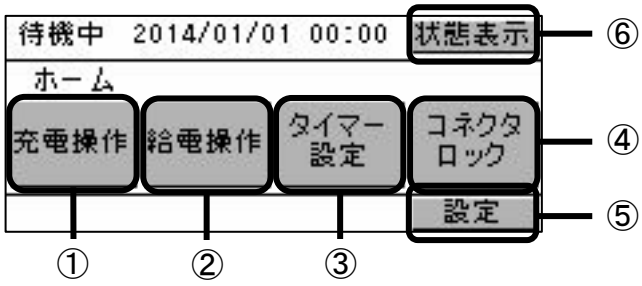
①	モード表示	動作モード（未接続、未ロック、待機中、充電中、給電中）を表示します。車両からの操作で動作中も充電中と表示します。
②	時刻表示	EVパワー・ステーションに設定されている時刻 （年／月／日　時刻）を表示します。
③	ホームボタン/ 状態表示ボタン	画面により [ホーム]または[状態表示]が表示されます。
④	操作・表示領域	操作ボタン、データ、ガイダンスを表示します。
⑤	サブボタン領域	設定ボタンや戻るボタン、ページ送りボタンなどが表示されます。
⑥	メッセージ表示	お知らせするメッセージを表示します。

操作によって表示される画面については「本体タッチパネル操作画面構成」(→67 ページ)を参照ください。

ホーム画面表示

ここから順に目的の操作を行います。

ホーム画面



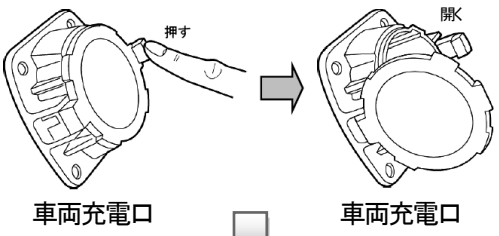
①	[充電操作]	充電操作を行います。
②	[給電操作]	給電操作を行います。
③	[タイマー設定]	タイマー運転や条件設定を行います。
④	[コネクタロック]	コネクタのロックやロック解除を行います。
⑤	[設定]	システムに関する設定とデータの表示を行います。
⑥	[状態表示]	現在の電力状態を表示します。

車両との接続方法

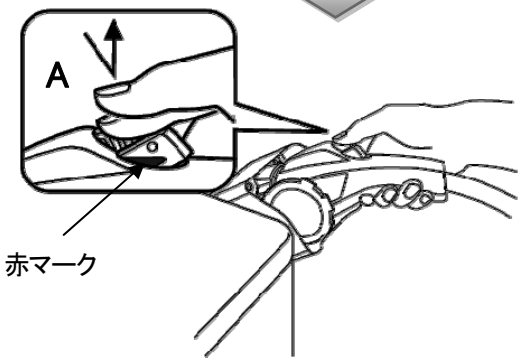
車両との接続は、車両が停止した状態で行ってください。
車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（＊POWER OFF）にしてください。
＊車種により名称が異なる場合があります。車両の取扱説明書を参照ください。
＊車両によっては、自動ロック機能に対応していない場合があります。

車両に接続する

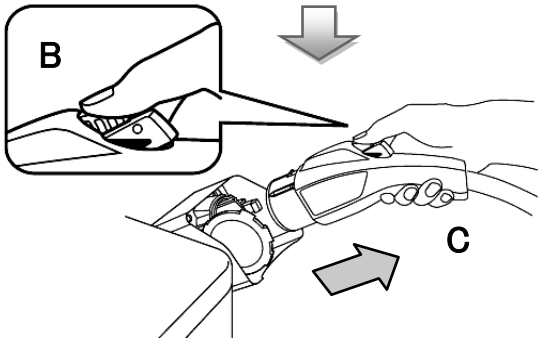
① **車両を準備する。**
車両のシフトをパーキング(P 位置)にします。
POWER OFF にして車両の充電口を開きます。



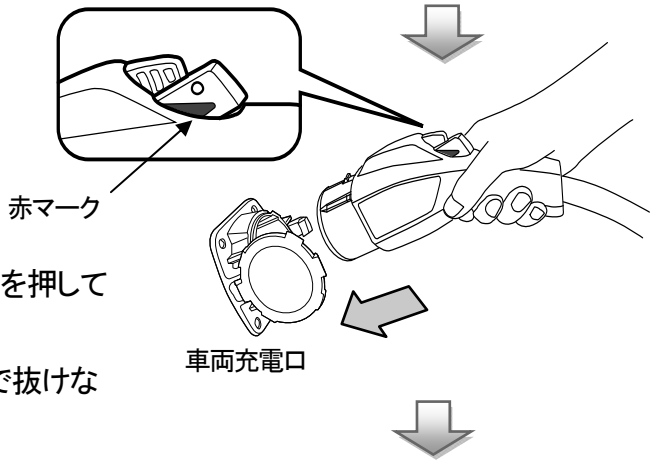
② **固定ボタンを解除する。**
リリースボタンを押して、固定ボタン側面の「赤マーク」が見える状態にしてください。(A)



③ **コネクタホルダからコネクタを取り外す。**
もう一度リリースボタンを押して(B)、コネクタをコネクタホルダから引き抜いてください。(C)



④ **コネクタを車両に接続する。**
固定ボタン側面に「赤マーク」が見えることを確認してからコネクタを車両充電口の奥まで挿し込みます。

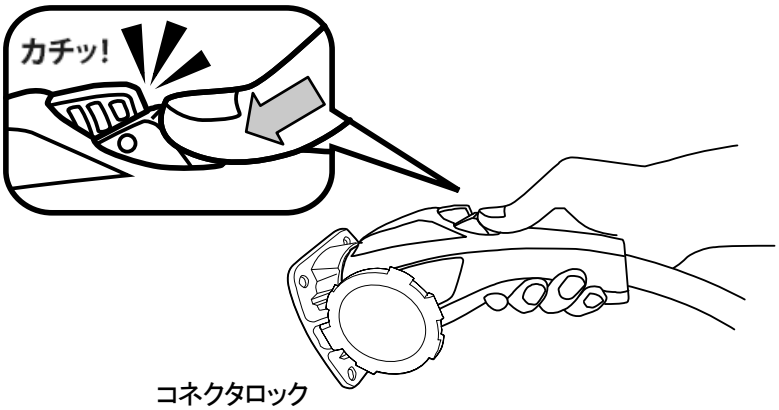


※「赤マーク」が見えない場合はリリースボタンを押して下さい。
※ 車両充電口にコネクタをしっかりと挿し込んで抜けないことを確認してください。

⑤ **コネクタの固定ボタンを押しこむ。**

固定ボタンを「赤マーク」が見えなくなるまで前方に押し込んでください。

自動ロックに対応している車両の場合、本体からピー音が鳴ります。



コネクタロック

⑥ **タッチパネルの状態を確認する。**

自動ロックに対応している車両の場合、しばらくすると「カチッ！」と音がしてロック完了します。

タッチパネル左上部分に表示されているモード表示が待機中、充電中、給電中のいずれかになっていることでロックされていることを確認してください

※ 自動ロック中にコネクタのロック解除ボタンを押すとロックに失敗する場合があります。ロックに失敗した場合は④から再度操作を行ってください。

※ 車両との接続に失敗した場合コネクタはロックされません。ロックされていない場合充電動作や給電動作を行うことはできません。

自動ロックに対応していない車両の場合、または手動でロックする場合は、タッチパネルに表示されている画面によって操作方法が異なります。

[お帰りなさい] ボタンが表示された場合は⑦、それ以外の画面の場合は ⑧、⑨の操作を行います。（タッチパネル表示が消えている場合は画面にタッチして画面を表示させます。）

お帰りなさい

⑦ **[お帰りなさい] ボタンが表示された場合。**

[お帰りなさい] ボタンをタッチします。

コネクタが車両にロックされますので操作は終了です。

お帰りなさい画面について

タッチパネルのバックライトが消えるときにコネクタがロックされていない場合、次回タッチパネルをタッチしたときにお帰りなさい画面を表示します。[お帰りなさい] ボタンを押すとコネクタロック動作を行うので、車両にコネクタを接続してから[お帰りなさい] ボタンを押して下さい。

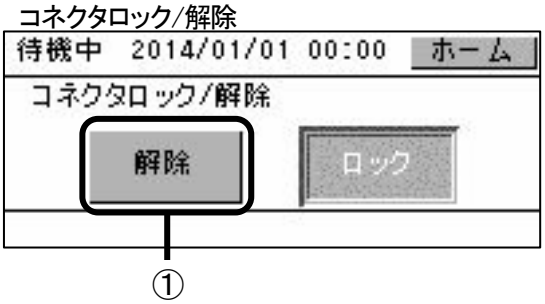
⑧ **[お帰りなさい] ボタンが表示されない場合。**
自動ロック機能に対応していない場合。
ホーム画面で[コネクタロック] ボタンをタッチします。

⑨ **コネクタをロックする。**
コネクタロック/解除画面で[ロック] ボタンをタッチします。
コネクタが車両にロックされますので操作は終了です。

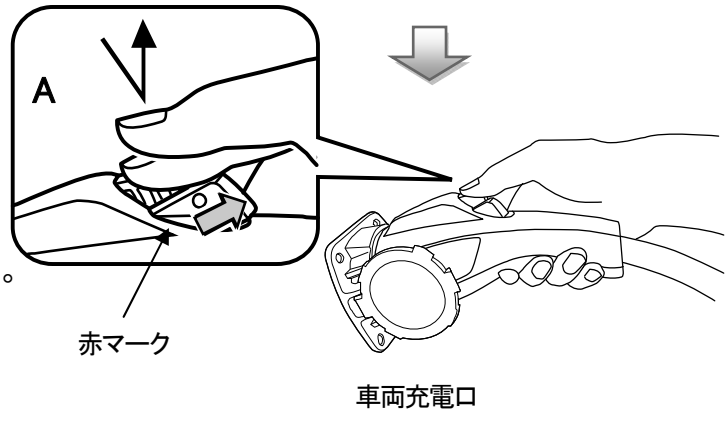
- コネクタが車両 に接続されていない状態では、コネクタはロックできません。
- コネクタロック中は、無理にコネクタを取り外さないでください。
- EVパワー・ステーション本体のコネクタホルダにはロックできません。
- コネクタロックできない場合は P61 を参照ください。
- コネクタロック解除を行った直後にロックを行う場合、ロックするまで最大で約 20 秒かかる場合があります。

車両から取り外す

① **コネクタのロックを解除する。**
コネクタロック/解除画面で
[解除] ボタンをタッチします。

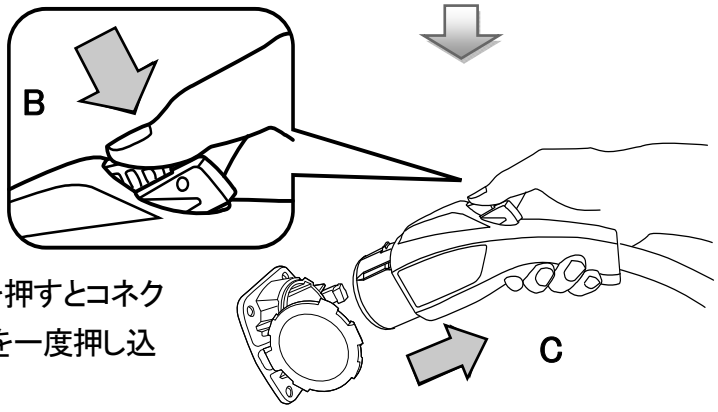


② **固定ボタンを解除する。**
リリースボタンを押して、固定ボタン側面の「赤マーク」が見える状態にしてください。(A)



※ 充電・給電中にコネクタを外さないでください。
※ コネクタを外す場合は、充電・給電動作を停止し、EVパワー・ステーションが停止したことを確認した後に行ってください。
※ リリースボタンが押せない場合は手順①を行ってください。

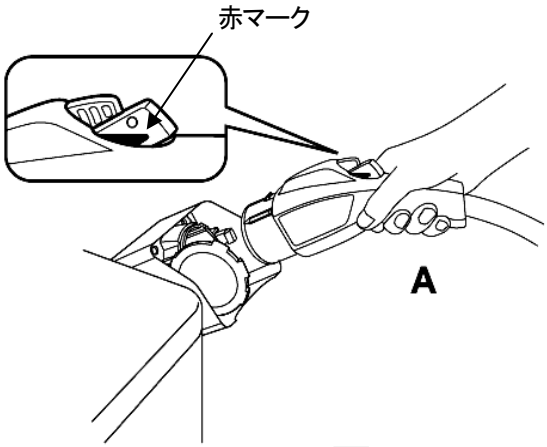
③ **車両からコネクタを取り外す。**
もう一度リリースボタンを押して(B)、コネクタをコネクタホルダから引き抜いてください。(C)



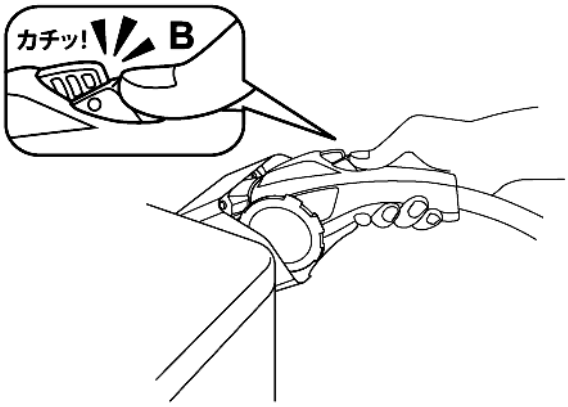
※ コネクタを引っ張りながらリリースボタンを押すとコネクタが抜けにくい場合があります。コネクタを一度押し込んでから操作を行ってください。

車両充電口

④ **EVパワー・ステーションにコネクタを収納する。**
ケーブルをコネクタホルダに巻き付け、固定スイッチ側面の「赤マーク」が見える状態でコネクタを収納口に挿し込みます(A)。



※ 不使用時は、雨水やほこりなどを避けるためにも、コネクタをコネクタホルダに収納して保管してください。



- コネクタロックを解除していると、コネクタが車両に接続されていても充電・給電できません。
- 充電・給電動作中にコネクタロックを解除すると充電・給電動作は停止します。
- 自動ロック対応車両の場合、解除ボタンをタッチした後コネクタを車両に接続したままにしていると 10 分で自動的に再度ロックを行います。

手動操作する

お好みのタイミングで車両への充電や、車両からの給電を行うことができます。

充電する前に

- EVパワー・ステーションの倍速充電機能を十分お使いいただくためには、最大で 6kW の電力が必要です。その他ご家庭内でご使用になる電気機器も含めた電力契約が必要です。
- 充電時に系統電力を計測し、設定した契約電力値以下になるように充電電力を制御します（インテリジェント充電制御）。充電時にご家庭の使用電力が多いと、充電時間が長くなることがあります。インテリジェント充電制御は、本機能非対応の車両 には対応していません。
- 通常は車両が推奨するバッテリー容量まで充電します。満充電が設定されている場合は、満充電まで充電します。（但し、車両によっては満充電前に車両が充電停止する場合があります）

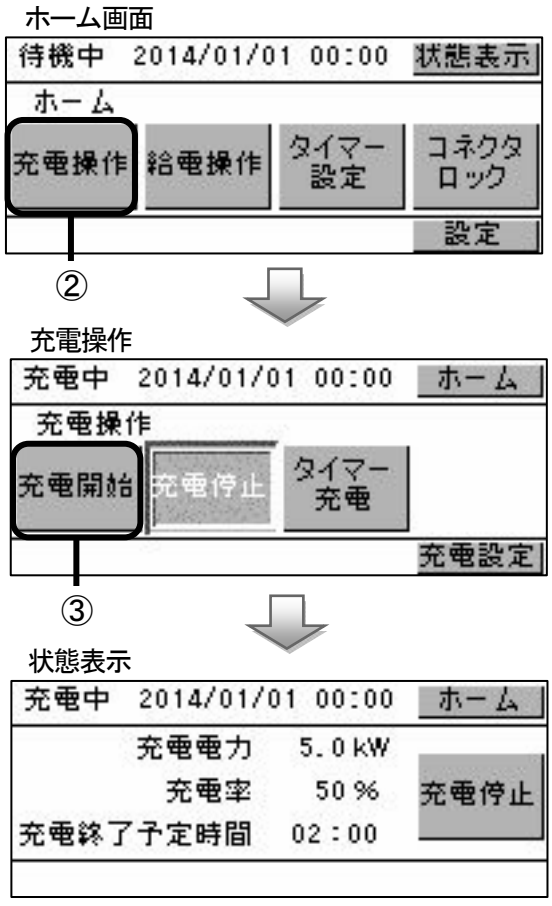
充電を開始する（タッチパネルを使用する場合）

① **コネクタを接続する。**
コネクタを車両に接続します。（→19 ページ）

② **充電操作画面に切り替える。**
ホーム画面で[充電操作] ボタンをタッチします。

③ **充電する。**
[充電開始] ボタンをタッチします。
状態表示画面に切り替わり、充電開始します。

※ 充電中と表示されてから実際に充電するまで数秒のタイムラグが発生する場合があります。

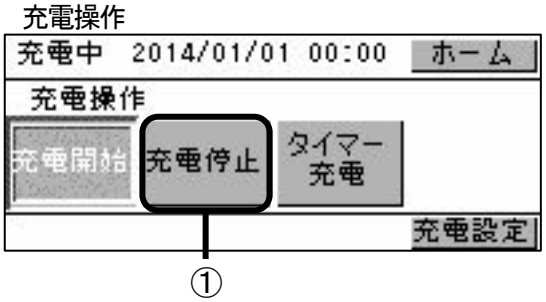


- 充電を開始するには事前にコネクタを車両に接続する必要があります。
- 停電した場合、EVパワー・ステーションが停電復旧を確定（停電が終わって約 5 分）するまでは充電することができません。

- コネクタを車両に接続しても[充電開始] ボタンが押せない場合はEVパワー・ステーションが機器保護の為に停止している可能性があります。
- 給電中に[充電開始] ボタンをタッチすると、自動的に給電を終了してから充電動作を開始します。
- 状態表示画面に表示される数値は目安として参照ください。
- 車両からの操作による動作中は、[充電操作] [充電開始] ボタンをタッチすることはできません。手動充電操作する前に車両からの操作を取り消してください。(→21 ページ)

充電を停止する(タッチパネルを使用する場合)

① **充電を停止する。**
充電操作画面で[充電停止]ボタンをタッチします。

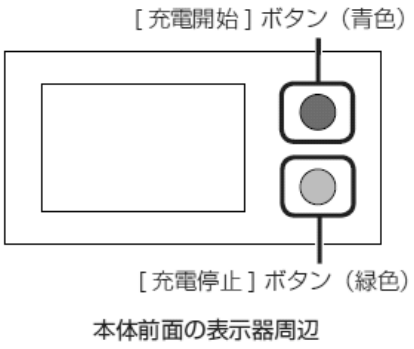


- 状態表示画面の[充電停止] ボタンを押しても、充電停止することができます。(→25 ページ)
- 充電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(→21 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。

充電を開始する(本体前面のボタンを使用する場合)

① **コネクタを接続する。**
コネクタを車両に接続します。(→19 ページ)

② **充電を開始する。**
本体前面の[充電開始] ボタン(青色)を押します。



本体前面の表示器周辺

- パスワード保護を有効にしていても、前面ボタンの操作は可能です。
- 本体前面の[充電開始] ボタンは点灯しているときのみ操作することができます
- 車両への充電中は[充電開始] ボタンは点滅(青色)します。
- [充電開始] ボタンが点滅してから充電するまで数秒のタイムラグが発生する場合があります。
- 充電状態を確認するには、ホーム画面で[状態表示] ボタンをタッチしてください。(→18 ページ)
- 車両からの操作による動作中は、[充電開始] ボタン(青色)を押しても手動充電に切り替わりません。ただし、車両からの操作が終了すると、手動充電に切り替わります。即座に切り替えたい場合には、手動充電操作する前に車両からの操作を取り消してください。(→35 ページ)

充電を停止する（本体前面のボタンを使用する場合）

① **充電を停止する。**
本体前面の[充電停止] ボタン(緑色)を押します。
車両への充電が停止します。

- パスワード保護を有効にしていても、前面ボタンの操作は可能です。
- 充電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(→21 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。

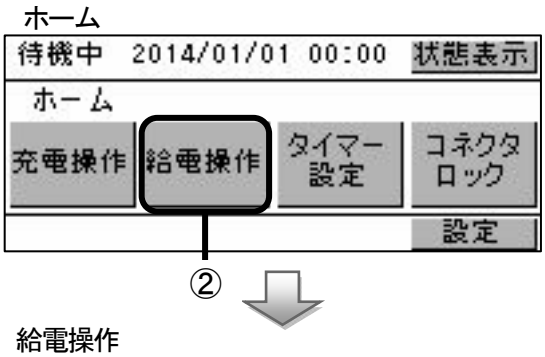
給電する前に

- 給電をする前に、11 ページの「給電時に使用する電気機器について」をご確認ください。
- 通常は車両の推奨するバッテリー容量まで給電します。最低確保充電率設定を有効にしていても車両のバッテリー容量が最低確保充電率以下になっている場合は、給電できません。

給電を開始する

① **コネクタを接続する。**
コネクタを車両に接続します。(→19 ページ)

② **給電操作 画面に切り替える。**
ホーム画面で[給電操作] ボタンをタッチします。



③ **給電を開始する。**
[給電開始] ボタンをタッチします。
状態表示画面に切り替わり、給電開始します。

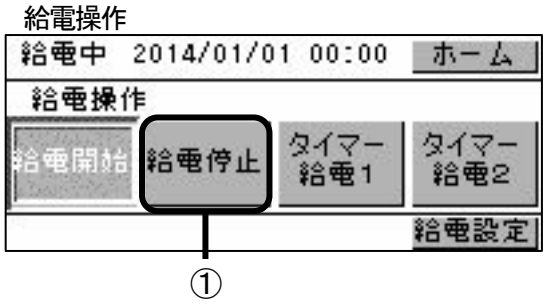
※ 給電中と表示されてから数秒後に給電が開始されます。

- 給電を開始するには事前にコネクタを給電機能に対応した車両に接続する必要があります。
- コネクタを車両に接続しても[給電開始] ボタンが押せない場合はEVパワー・ステーションが機器保護の為に停止している可能性があります。
- 充電中に[給電開始]をタッチすると、自動的に充電を終了してから給電動作を開始します。
- 状態表示画面に表示される数値は目安として参照ください。

- 車両からの操作による動作中は、[給電操作] [給電開始] ボタンをタッチすることはできません。手動給電操作する前に車両からの操作を取り消してください。(→35 ページ)

給電を停止する

① **給電を停止する。**
給電操作画面で[給電停止] ボタンをタッチします。



- 状態表示画面の[給電停止] ボタンを押しても、給電停止することができます。
- 給電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(→21 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。
- 給電中に停電が発生した場合、給電を停止すると宅内が停電します。

タイマー予約操作をする

タイマーを設定すると毎日設定した時間に、充電の開始／停止、給電の開始／停止を行います。

以下の場合**タイマー運転は開始されませんのでご注意ください。**
- タイマー開始時刻に、手動で充電動作または給電動作が行われている
- タイマー開始時刻に、コネクタが車両に接続(ロック)されていない
- タイマー開始時刻に、車両からの操作で動作が行われている

このほかの注意事項については 56～59 ページをご確認ください。

充電タイマーを設定する

設定時間に自動的に充電を開始します。
タイマー運転時間中はタイマー設定を変更できません。

① **タイマー設定 画面に切り替える。**
ホーム画面で[タイマー設定] ボタンをタッチします。

② **タイマー充電設定 画画に切り替える。**
[タイマー充電] ボタンをタッチします。

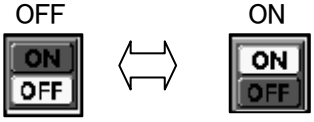
※ タイマー運転時間中はタイマー充電設定画面に移動できません。

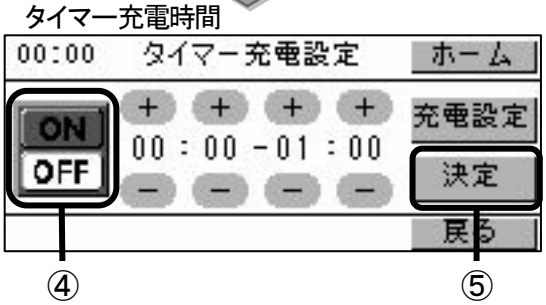
③ **時刻を設定する。**

＋、－ ボタンで設定したい時刻に合わせます。

※ [時]は 1 時間単位、[分]は 10 分単位で変更できます。

④ **タイマーを有効にする。**
[ON/OFF] をタッチして ON にします。
タイマー運転を無効にする場合は、同一の手順で OFF にしてください。





⑤ **変更した時刻を保存する。**

[決定] ボタンをタッチします。

※ [決定] ボタンをタッチしないと、設定した時刻と ON/OFF は保存されません。
※ タイマー充電時間はタイマー給電の設定時間と重複しないように設定してください。
設定時間が重複していると、設定は行えずエラーメッセージが表示されます。
※ 日付をまたいでの設定も可能です。

⑥ **コネクタを接続する。**

コネクタを車両に接続します。(→19 ページ)

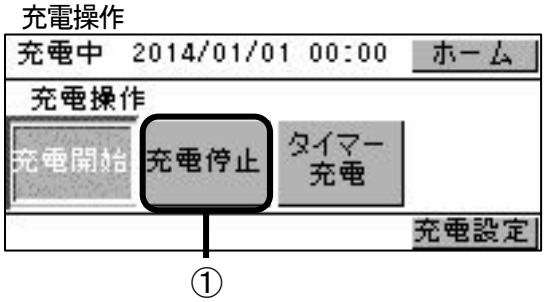
※ コネクタは、設定した開始時刻までに車両に接続しておいてください。
※ 車両に接続後、コネクタはロックしておいてください。

タイマー充電中に充電を停止する

タイマー充電中に充電を停止する場合は、手動操作による充電停止をしてください。

① **充電を停止する。**

充電操作画面で[充電停止] ボタンをタッチします。



- 状態表示画面の[充電停止] ボタンを押しても、充電停止することができます。
- 充電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(→21 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。

タイマー設定時間中に再充電する

タイマー充電を手動で停止した場合、タイマー設定時間であれば以下の手順によって充電動作を再開させることができます。

① **コネクタのロックを解除する。**

コネクタがロックされている場合、コネクタロック/解除画面で、[解除] ボタンをタッチして、コネクタロックを解除します。

② **コネクタをロックする。**

[お帰りなさい] ボタンまたは[ロック] ボタンでコネクタを車両にロックします。(→20 ページ)

コネクタロックが完了すると、自動的にタイマー充電が再開します。

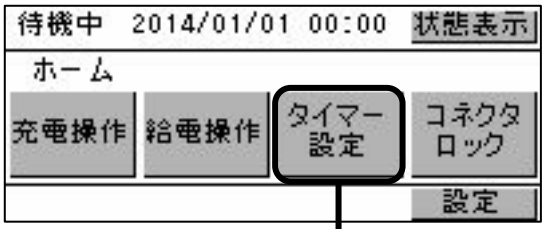
タイマー給電する前に

- タイマー給電をする前に、11 ページの「給電時に使用する電気機器について」をご確認ください。
- 通常は車両の推奨するバッテリー容量まで給電します。最低確保充電率設定を有効にしていても車両のバッテリー容量が最低確保充電率以下になっている場合は、給電できません。
- タイマー開始時刻から実際に動作するまで数秒のタイムラグが発生する場合があります。

給電タイマーを設定する

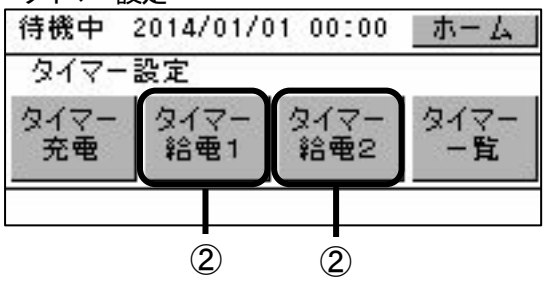
設定時間に自動的に給電を開始します。
タイマー給電では 2 つのタイマーが使用できます。
タイマー運転時間中はタイマー設定を変更できません。

ホーム



① タイマー設定 画面に切り替える。
ホーム画面で[タイマー設定] ボタンをタッチします。

タイマー設定



② タイマー給電設定 画面に切り替える。
[タイマー給電1] ボタンまたは [タイマー給電 2] ボタンをタッチします。

※ タイマー給電設定は、1 日の中で 2 通りの設定ができます。
※ タイマー運転時間中は当該のタイマー給電設定画面に移動できません。

タイマー給電設定

③ 時刻を設定する。

＋、－ ボタンで設定したい時刻に合わせます。

※ [時]は 1 時間単位、[分]は 10 分単位で変更できます。

タイマー給電時間

④ タイマー設定を有効にする。
[ON/OFF] ボタンをタッチして ON にします。
タイマー運転を無効にする場合は、同一の手順で OFF にしてください。

⑤ **変更した時刻を保存する。**
[決定] ボタンをタッチします。

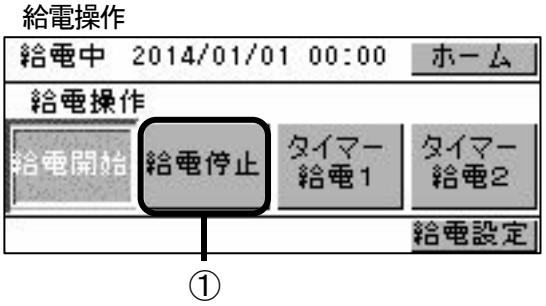
※ [決定] ボタンをタッチしないと、設定した時刻と ON/OFF は保存されません。
※ 給電開始・終了時間はタイマー充電の設定時間帯と重複しないように設定してください。
※ タイマー給電時間 1 およびタイマー給電時間 2 の設定時間帯はそれぞれ重複しないように設定してください。
※ 設定時間が重複していると、設定は行えずエラーメッセージが表示されます。
※ 日付をまたいでの設定も可能です。

⑥ **コネクタを接続する。**
コネクタを車両に接続します。(→19 ページ)
※ コネクタは、設定した開始時刻までに車両に接続しておいてください。
※ 車両に接続後、コネクタはロックしておいてください。

タイマー給電中に給電を停止する

タイマー給電中に給電を停止する場合は、手動操作による給電停止をしてください。

① **給電を停止する。**
給電操作画面で[給電停止] ボタンをタッチします。



- 状態表示画面の[給電停止] ボタンを押しても、給電停止することができます。
- 給電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(→21 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。

タイマー設定時間中に再給電する

タイマー給電を手動で停止した場合、タイマー設定時間であれば以下の手順によって給電動作を再開させることができます。

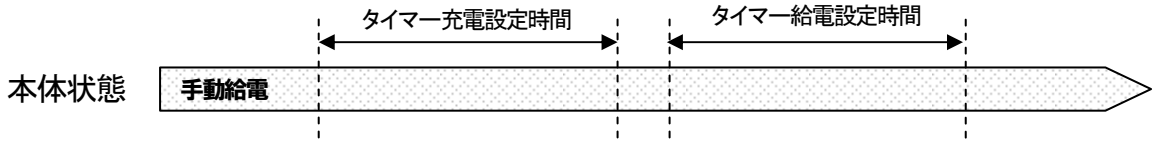
① **コネクタのロックを解除する。**
コネクタがロックされている場合、コネクタロック/解除画面でコネクタロックを解除します。

② **コネクタを接続する。**
[お帰りなさい] ボタンまたは[ロック] ボタンで車両にコネクタをロックします。(→20 ページ)
コネクタロックが完了すると、自動的にタイマー給電が再開します。

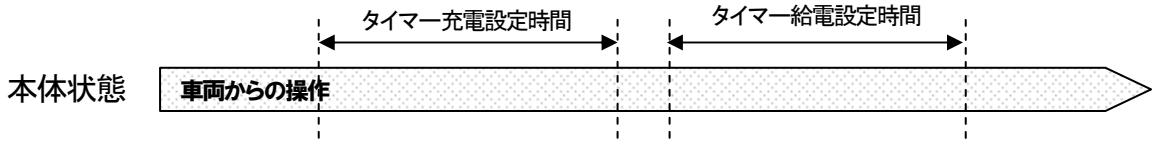
タイマー予約の優先度

EVパワー・ステーションは車両からの操作、および手動操作を優先して動作します。

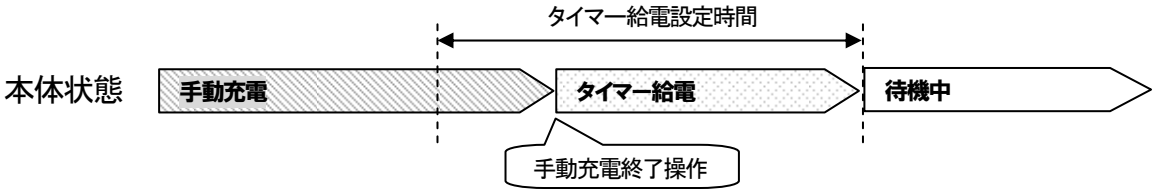
例:手動給電中にタイマー充電やタイマー給電設定時間になった場合
→ 手動給電を継続します。



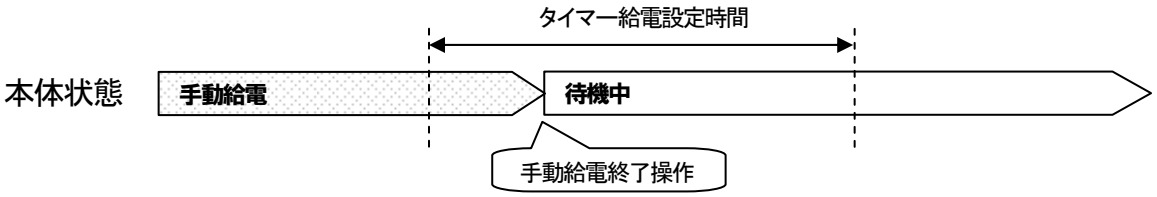
例:車両からの操作による動作中にタイマー充電やタイマー給電設定時間になった場合
→ 車両からの操作による動作を継続します。



例:タイマー給電設定時間に手動充電を終了させた場合
→ タイマー給電が始まります。



例:タイマー給電設定時間に手動給電を終了させた場合
→ タイマー給電は行いません。



※ 一例として記載しております。充電と給電を逆にしても同様に動作します。

車両から操作する（ＥＶ優先設定）

本製品は車両から操作(充電)する機能に対応しています。
本機能をお使いいただく場合は、EV優先設定を有効にしてお使いください。（→52 ページ）

本機能に対応している車両は以下の通りです。
　日産リーフ （放電機能対応車）
※上記車種以外で対応が確認できた場合は、弊社ホームページに掲載いたします。

車両からの操作を開始する

① **コネクタを接続する。**
コネクタを車両に接続します。（→19 ページ）

② **車両から操作する。**
詳細は車両の取扱説明書を参照ください。

- 車両からの操作により動作している場合は、EVパワー・ステーション本体や室内リモコンは以下のようになります。
  - 本体タッチパネルでは充電・給電操作等は行えません。（ロック解除操作は行えます。）
  - 本体前面の充電開始ボタン・充電停止ボタンは使用できません。
  - 本体タッチパネルの状態表示は「充電中」となります。
  - 室内リモコンから充電停止操作と給電開始ボタンは押せますが、実行されずに「設定失敗-再操作してください」というメッセージが表示されます。（ロック解除操作は行えます）
  - 室内リモコンの状態表示は「充電中」となります。

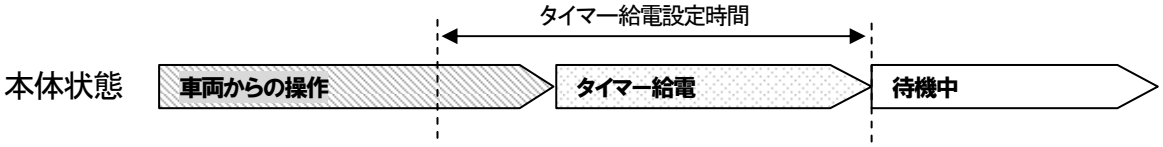
車両からの操作の優先度

EV優先設定を有効にしてお使いの場合、EVパワー・ステーションは車両からの操作を優先して動作します。

■車両からの操作とタイマー給電

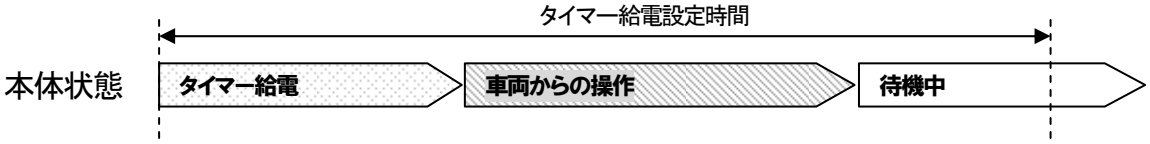
例:車両からの操作中にEVパワー・ステーションのタイマー給電開始時間になった場合

→ 車両からの操作が終了するとEVパワー・ステーションのタイマー給電が始まります。



例:EVパワー・ステーションのタイマー給電設定時間内に車両から操作した場合

→ 車両からの操作に切り替わります。

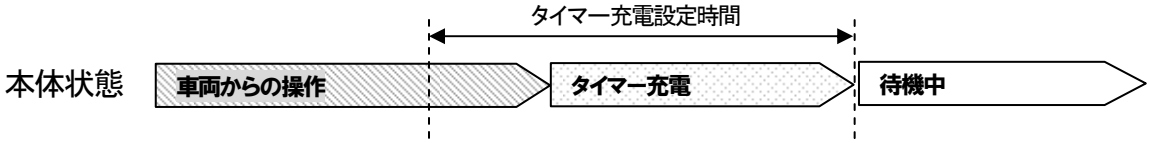


- 車両からの操作とEVパワー・ステーションのタイマー給電時間は重ならないように設定してください。

■車両からの操作とタイマー充電

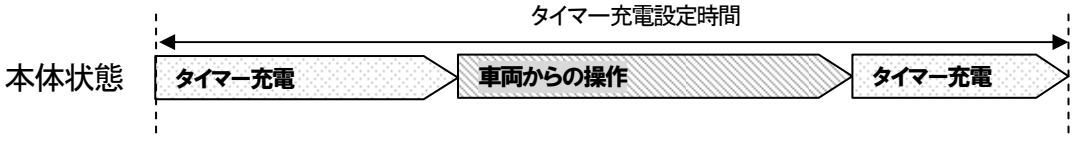
例:車両からの操作中にEVパワー・ステーションのタイマー充電開始時間になった場合

→ 車両からの操作が終了するとEVパワー・ステーションのタイマー充電が始まります。



例:EVパワー・ステーションのタイマー充電設定時間内に車両から操作した場合

→ 車両からの操作に切り替わります。



日産 車両から操作する（EV-IT）

本製品は日産車両（放電機能対応車）の EV-IT 機能の一部に対応しており、EV優先設定を行うと車両もしくは携帯電話等からのリモート操作が可能です。（操作方法は車両の取扱説明書を参照ください。）

		EV優先設定が有効のとき	EV優先設定が無効のとき（※15）
タイマー充電		○（※1, 2, 3, 4）	×
タイマーエアコン		○（※5）	×
リモート充電	今すぐ充電	○（※1, 6）	×
	バッテリー状態チェック	○（※7, 8）	○（※8）
乗る前エアコン	今すぐエアコン	○（※9, 10）	×
	出発時刻で予約	×（※11）	×
即充電スイッチ（車室内スイッチでの操作）		○（※1, 12）	×
充電停止通知		○（※13）	×
プラグ挿し忘れ通知		×（※14）	×

※1: 充電開始時のリチウムイオンバッテリーの残量や気温などにより、充電量が 100%になる前に充電が停止する場合があります。

※2: 車両のタイマー充電設定時は必ず開始時間も設定してください。終了時間のみの設定では正常に動作しない場合があります。

※3: 車両 のタイマー充電の予約がされていないときでも、普通充電のようにコネクタを挿し込むだけでは充電が開始されることはありません。コネクタのロック（→20 ページ）を行ってください。また、車両のバッテリー残量が極端に低い場合は、コネクタロック後に充電が自動的に開始されます。この充電はバッテリー残量が一定量確保されると停止します。（バッテリーを保護するための機能です。よって最低限の充電のみ行います。）

※4: EV-IT でタイマー充電を設定する場合、EVパワー・ステーションのタイマー給電時間と重ならないようにしてください。重なっている場合、正常に動作しない場合があります。

※5: EV-IT でタイマーエアコンを設定する場合、設定する出発時刻の 2 時間前とEVパワー・ステーションのタイマー給電時間が重ならないようにしてください。重なっている場合、正常に動作しない場合があります。

※6: EVパワー・ステーションが給電動作中に“今すぐ充電”操作を行うと、“リモート充電（NG）”メールが誤送信されることがあります。充電が開始できたかは、“バッテリー状態チェック”で確認することができます。

※7: 車両の今すぐ充電、タイマー充電、および、即充電スイッチによる充電中に表示する充電状態は、「急速充電中」が表示されます。

※8: EVパワー・ステーションで給電中にバッテリー状態チェックを行った場合、「非充電（急速ケーブル接続中）」が表示されます。また、コネクタのロック／未ロックに関係なく、非充電時のバッテリー状態は「非充電（急速ケーブル接続中）」が表示されます。

※9: EVパワー・ステーションが給電中に乗る前エアコン（今すぐエアコン）操作を行うと、エアコンに切り替わる前に “乗る前エアコン停止”メールが送信されることがあります。その際はもう一度乗る前エアコンの操作を繰り返してください。

※10:“乗る前エアコン（OK）”メールの本文はEVパワー・ステーションには対応していません。よって、メール本文中に「充電ケーブルからの外部電力が無いため、バッテリー電力を使っています。パワースイッチを ON にするまで、エアコンを作動します。（最大 15 分）」と記載されますが、EVパワー・ステーションに正しく接続されていれば外部電力で最大 2 時間は作動します。

※11:乗る前エアコン（出発時刻で予約）には対応しておりません。EVパワー・ステーションが給電中に乗る前エアコン（出発時刻で予約）操作を行うと、正常に動作しない場合があります。

※12:即充電スイッチは、充電動作が開始する前に、もう一度押すと充電がすぐに停止します。

※13:EVパワー・ステーションの手動、および、タイマーの充電では“充電停止通知”メールは送信されません。

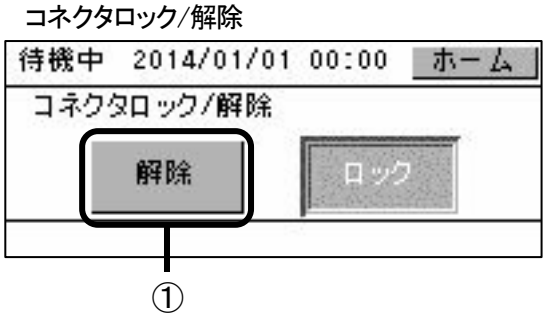
※14:充電プラグ挿し忘れ通知には対応しておりません。EVパワー・ステーションのEV優先設定を有効にしてお使いいただく場合でも、「プラグ挿し忘れ通知」の設定は解除してください。

※15:EV優先設定を無効の際に EV-IT 操作を行っても充電動作が開始することはありません。しかしEVパワー・ステーションの給電動作は停止します。EV-IT をお使いにならない場合は、車両の EV-IT 設定を無効にしてご利用ください。

車両からの操作の取り消し方

車両からの操作により動作している場合は、EVパワー・ステーションから充電・給電操作できません。EVパワー・ステーションからの操作が必要な際は、以下の手順で車両からの操作を取り消してください。

① **コネクタのロックを解除する。**
コネクタロック/解除画面で[解除] ボタンをタッチします。
※ コネクタを車両に接続したままの場合、10 分経過すると自動的に再度ロック動作を行います。（自動ロック対応車両のみ。）
コネクタがロックした場合、再度車両からの操作により動作する可能性があります。



以下に日産リーフの場合の操作を記載しています。その他の車種をご使用の場合、操作方法は車両の取扱説明書を参照ください。

② **車両を READY 状態にする。**
車両のブレーキを踏みながらパワースイッチを押します。

③ **車両のタイマー設定を OFF にする。**
EVパワー・ステーションの充電・給電操作と車両のタイマー充電、タイマーエアコンの時間設定が重なる場合には OFF にします。

④ **車両を POWER OFF 状態にする。**
車両のパワースイッチを押します。

停電時に使用する

万一、系統電力が停電になったときには、手動で車両からの給電を行うことができます。
停電時は、手動給電操作のみ可能です。タイマー運転は開始しません。
給電する場合は、車両からの操作を取り消してください。

車両への充電中に停電したら

- 手動操作充電中に停電した場合、充電は停止します。復旧後に再度充電操作を行ってください。
- タイマー充電中に停電した場合、充電は停止します。タイマー設定時間内にEVパワー・ステーションが停電復旧を確定した場合(約 5 分間かかります)、充電を再開します(停電時の給電に切り替えた場合は再開しません)。
  車両からの給電に切り替える場合は、給電を開始する(→25 ページ)を行ってください。
- 車両からの操作による動作中に停電した場合、動作は停止します。停電復旧を確定した場合(約 5 分間かかります)、動作を再開することがあります。

車両から給電中に停電したら

- 手動操作給電中に停電した場合、手動操作で給電停止するまで給電を継続します。
- タイマー給電中に停電した場合、給電終了時刻になるまで給電を継続します。

待機中に停電したら

- 手動操作により車両から給電することができます(→25 ページ)。
- 停電中にタイマー給電開始時刻になっても給電は開始しません。
- 停電中は、手動操作充電、タイマー充電、どちらもできません。

停電時に給電する前に

- 給電をする前に、11 ページの「給電時に使用する電気機器について」をご確認ください。
- 通常は車両の推奨するバッテリー容量まで給電します。最低確保充電率設定を有効にしていても車両のバッテリー容量が最低確保充電率以下になっている場合は、給電できません。
- 停電後 10 分以上経過すると、タッチパネルから操作できなくなります。その場合は、本体裏面の[停電復旧] ボタン(黄色ボタン)を、タッチパネルにホーム画面が表示されるまで長押しを行い、再起動をしてください。
- 停電後 10 分以上経過してタッチパネルから操作できない状態になっていた場合、「パスワード」、「パスワード有効設定」、「音関連設定」、「EV優先設定」が初期化されていますので再設定してください。
- 再起動直後に「停電を検知しました」と表示される場合があります。その場合は、右上の[ホーム] ボタンを押してホーム画面に戻ってから操作を行ってください。

停電時に給電を開始する

① **コネクタを接続する。**
コネクタを車両に接続します。(→19 ページ)

② **給電操作画面に切り替える。**
ホーム画面で[給電操作] ボタンをタッチします。

③ **給電を開始する。**
[給電開始] ボタンをタッチします。
状態表示画面に切り替わり、給電開始します。

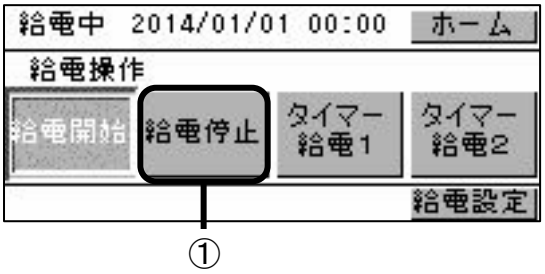
※ 給電中と表示されてから数秒後に給電が開始されます。

- 給電を開始するには事前にコネクタを給電機能に対応した車両に接続する必要があります。
- コネクタを車両に接続しても[給電開始] ボタンが押せない場合はEVパワー・ステーションが機器保護の為に停止している可能性があります。
- 状態表示画面に表示される数値は目安として参照ください。
- 車両からの操作中に停電した場合、給電を開始できないことがあります。給電操作する前に車両からの操作を取り消してください。(→35 ページ)

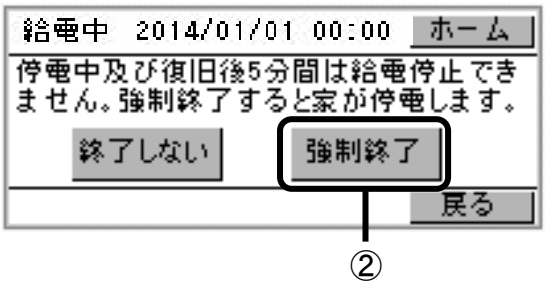
停電時に給電を停止する

① **給電を停止する。**
［ 給電停止 ］ボタンをタッチします。

給電操作



② **強制終了する。**
［ 強制終了 ］ボタンをタッチします。



- 状態表示画面の［ 給電停止 ］ボタンを押しても、給電停止することができます。
- 給電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
- コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」(→21 ページ)を参考にロックの解除を行ってください。
- 停電中に給電を停止した場合、宅内が停電します。

停電時に使用する場合の注意事項

- EVパワー・ステーションは系統からの電気が途絶えると、「停電」と認識します。尚、停電から系統が復旧しても約 5 分間は「停電」状態と認識します。
- 災害により停電が発生した場合は、漏電などがなく、電気系統に問題がないことを確認のうえ「給電操作」を行ってください。

⚠ 警告

もし漏電や地絡などが発生する可能性がある場合には、火災などのおそれがありますので「給電操作」は行わないでください。

待機中に停電が復旧したら

- 待機中に系統電力の停電が復旧すると、復旧と同時に宅内に系統電力から給電されます。
- 停電後 10 分以上経過してタッチパネルから操作できない状態になっていた場合、「パスワード」、「パスワード有効設定」、「音関連設定」、「EV優先設定」が初期化されていますので再設定してください。

車両から給電中に停電が復旧したら

- 手動操作給電中、タイマー給電中に系統電力の停電が復旧しても、車両からの給電を継続します。
- EVパワー・ステーションが系統電力復旧を確定するまで(約 5 分間)、充電はできません。
- 系統電力給電に切り替える場合は、系統電力復旧から 5 分経過後に操作してください。復旧から 5 分間は系統電力が家庭に接続されないため、宅内が停電します。
- 設定により、復旧後、自動的に系統電力給電に切り替えることができます。(→47 ページ)

ＦＣＶをご利用のお客様へ

本製品はトヨタFCVでも給電操作がお使いいただけます。（車両の操作については車両の取扱説明書を参照ください。）
この項目では、FCV特有の内容について記載しています。その他の内容については他項を参照ください。
充電機能はご利用いただけません。充電操作を行わないでください。
誤って充電操作をした場合は車両の取扱説明書にしたがって操作してください。

本機能に対応している車両は以下の通りです。
トヨタ MIRAI
※上記車種以外で対応が確認できた場合は、弊社ホームページに掲載いたします。

		FCV	記載ページ
車両への接続		○	41
充電	手動操作	×	―
	タイマー予約操作	×	―
給電	手動操作	○	42
	タイマー予約操作	○（※1）	29
停電時の給電操作		○	36
設定	充電設定（満充電設定）	×（※2）	―
	給電設定（最低確保充電率設定）	×（※2）	―
	自動復電設定	○	47
	パスワード設定	○	48
	音関連設定	○	50
	時刻設定	○	50
	EV優先設定	×（※2）	―
データを表示		○	53

※ 1：タイマー開始時は、車両の操作が必要となります。
※ 2：EVパワー・ステーションでの設定は可能ですが、動作はしません。

ＦＣＶとの接続方法

車両との接続は、車両が停止した状態で行ってください。
車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（＊POWER OFF）にしてください。
＊車種により名称が異なる場合があります。車両の説明書を参照ください。

車両に接続する

① **コネクタを接続する。**
コネクタを車両に接続します。（→19 ページの①②③④）
※「（21）車両と接続できませんでした。コネクタの接続を再確認してください」と表示される場合もありますが、異常ではございません。次の操作に進んでください。

② **車両の操作を行う。**
車両のブレーキを踏まずにパワースイッチを2回押します。
次に DCOUT スイッチを1回押します。
（詳細については車両の取扱説明書を参照ください。）

パワースイッチ

DCOUT スイッチ

③ **タッチパネルの状態を確認する。**
給電を行う際にコネクタのロックが必要となります。
タッチパネルに表示されている画面によって操作方法が異なります。
（タッチパネル表示が消えている場合は画面にタッチして画面を表示させます。）

タッチパネル左上が[待機中]と表示された場合はコネクタが車両にロックされますので操作は終了です。

[未ロック]と表示された場合は再度、車両のメーターパネルが消えた状態（＊POWER OFF）にし②の操作を行い、タッチパネルでコネクタロックを行います。（20 ページの⑥⑦又は 20 ページの⑥⑧⑨）
（しばらくすると車両の電源が OFF 状態となります）

[給電中]と表示された場合はEVパワー・ステーションのタイマー機能が働き、給電動作を行っております。
※給電中と表示されてから数秒後に給電が開始されます。

車両から取り外す

コネクタのロックを解除し、車両からコネクタを取り外します（→21 ページ）

手動操作する

車両からの給電を行うことができます。
停電時の給電開始、給電停止操作も以下と同じです。

給電する前に

- 給電をする前に、11 ページの「給電時に使用する電気機器について」をご確認ください。
  ※保護回路が動作すると自動的に系統に切り替わります。また、車両は POWER OFF となります。
  給電を再開する場合は、「給電を開始する」を行ってください。

給電を開始する

① **コネクタを接続する。**
コネクタを車両に接続します。(→19 ページ)

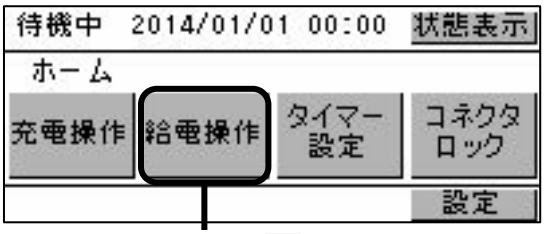
② **車両の操作を行います。**
車両の電源が OFF 状態であることを確認し、
車両のブレーキを踏まずにパワースイッチを2回押します。次に DCOUT スイッチを1回押します。
(詳細については車両の取扱説明書を参照ください。)

パワースイッチ

DCOUT スイッチ

③ **給電操作 画面に切り替える。**
ホーム画面で[給電操作] ボタンをタッチします。

ホーム



③

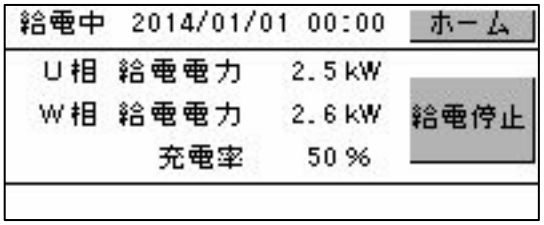
給電操作

④ **給電を開始する。**
[給電開始] ボタンをタッチします。
状態表示画面に切り替わり、給電を開始します。

※ 給電中と表示されてから数秒後に給電が開始されます。

④

状態表示



- コネクタを車両に接続しても[給電開始] ボタンが押せない場合はEVパワー・ステーションが機器保護の為に停止している可能性があります。
- 状態表示画面に表示される数値は目安として参照ください。
- 状態表示画面に表示される充電率の数値は、常に50%を表示しますので、水素残量については車両での確認をしてください。

給電を停止する

給電を停止させます。(→26 ページ)

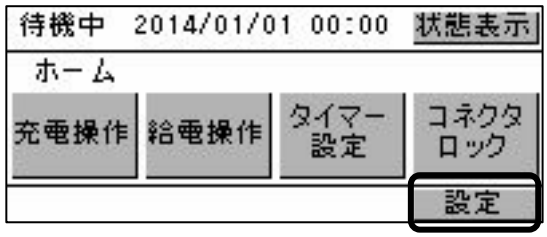
設定する

車両の充電率の設定やパスワード設定、時刻設定などシステムに関わる設定を行えます。

システム設定画面に切り替える

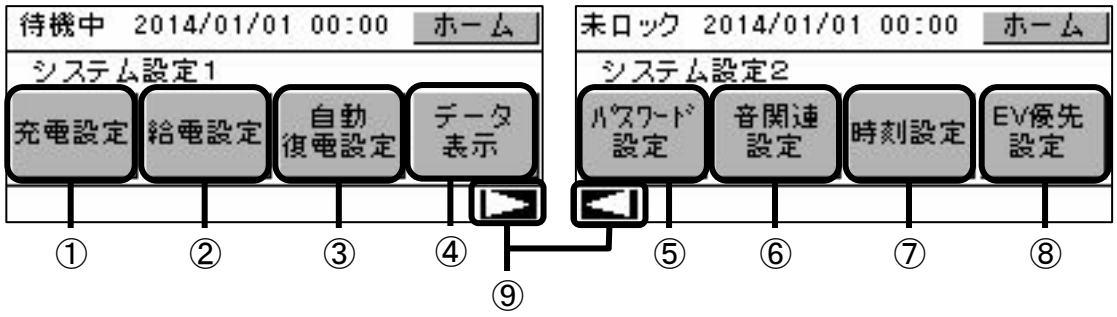
ホーム画面で［ 設定 ］ボタンをタッチします。

ホーム画面



システム設定画面が表示されます。ここから順に目的の操作を行います。

システム設定



①	［ 充電設定 ］	満充電設定を行います。
②	［ 給電設定 ］	最低確保充電率設定を行います。
③	［ 自動復電設定 ］	停電後、系統電力が復旧した場合に自動的に車両からの給電を停止する設定を行います。
④	［ データ表示 ］	充電電力及び給電電力のデータを表示します。
⑤	［ パスワード設定 ］	タッチパネルを保護するパスワードを設定します。
⑥	［ 音関連設定 ］	運転開始/終了のお知らせ音を設定します。
⑦	［ 時刻設定 ］	現在時刻の設定を行います。
⑧	［EV優先設定］	EV優先機能の設定を行います。
⑨	［ ▸／◂ ］	システム設定 1 とシステム設定 2 の切り替えをします。

充電設定（満充電設定）

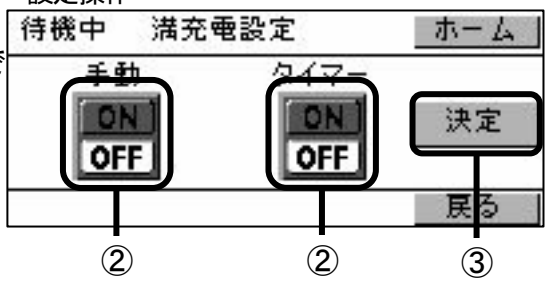
充電は車両が推奨するバッテリー容量まで行われますが、満充電設定をすることで満充電することができます。給電電力を増やしたい場合や長距離走行が必要な場合は、満充電を選択してください。

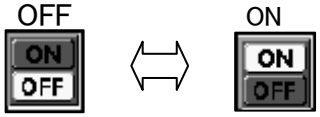
システム設定1

① **満充電設定 画面に切り替える。**
システム設定 1 画面で[充電設定] ボタンをタッチします。

② **満充電設定を有効にする。**
[ON/OFF] ボタンをタッチして ON にします。
満充電設定は手動とタイマーで個別に設定することができます。
満充電設定を無効にする場合は、同一の手順で OFF にしてください。

設定操作





③ **変更した設定を保存する。**
[決定] ボタンをタッチします。

※ [決定] ボタンをタッチしないと、設定は保存されません。

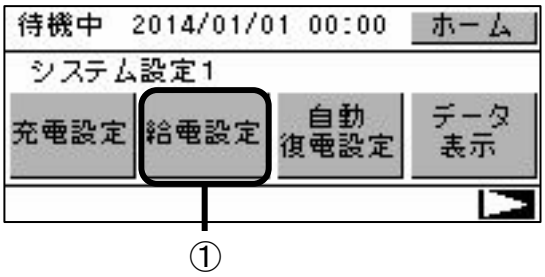
- 工場出荷時は[OFF]になっています。
- 車両によっては満充電設定を行っても車両から充電を中断して満充電できないことがあります。

給電設定（最低確保充電率設定）

給電は車両が推奨するバッテリー容量まで行われますが、最低確保充電率を設定することで任意の充電率で給電を停止することができます。給電電力を増やしたい場合や給電後に続けて車両で走行する予定がある場合に設定してください。

① **最低確保充電率設定 画面に切り替える。**
システム設定 1 画面で[給電設定] ボタンをタッチします。

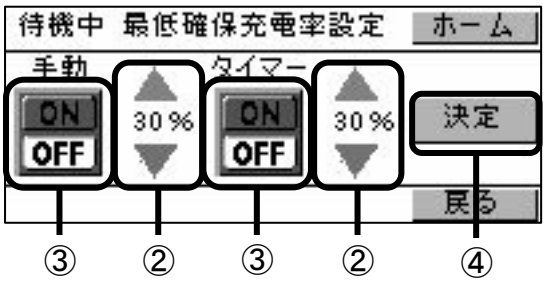
システム設定1



② **最低確保充電率を設定する。**
[▲／▼] ボタンをタッチして残したい充電率にします。
最低確保充電率は手動とタイマーで個別に設定することができます。

※ 値は 10%～100%まで 10%刻みで変更することができます。

設定操作



③ **最低確保充電率設定を有効にする。**
[ON/OFF] ボタンをタッチし ON にします。
有効/無効は手動とタイマーで個別に設定することができます。
最低確保充電率の設定を無効にする場合は、同一の手順で OFF にしてください。

OFF ⇔ ON

④ **変更した設定を保存する。**
[決定] ボタンをタッチします。

※ [決定] ボタンをタッチしないと、設定は保存されません。

- 工場出荷時は[OFF]になっています。
- 車両によっては、最低確保充電率を設定しても、車両メーカーの推奨値が適用されることがあります。

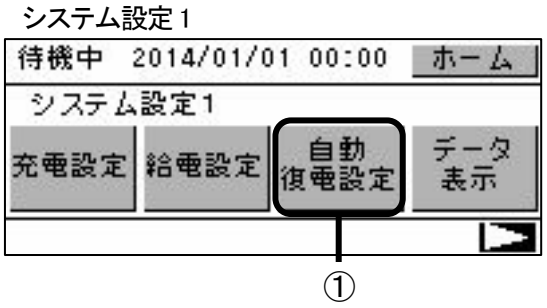
自動復電設定

停電中に手動給電操作を行った場合、系統電力の停電が復旧後に車両からの給電を、自動的に系統電力からの給電に切り替えることができます。

設定を有効にすると、系統電力復旧から約 5 分後に、自動的に系統電力給電に切り替わります。

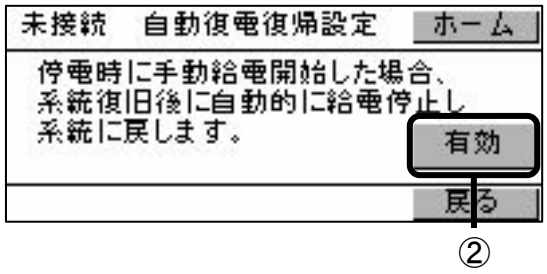
タイマー給電を設定している場合、系統電力への切り替えは、タイマー終了時刻に行います。

① **自動復電設定 画面に切り替える。**
システム設定 1 画面で[自動復電設定] ボタンをタッチします。



② **自動復電設定を有効にする。**
[有効] ボタンをタッチします。
自動復電設定を無効にする場合は、同一の手順で無効にしてください。

無効　　有効



- 工場出荷時は[無効]になっています。

パスワード設定

パスワードを有効にすると、タッチパネルを操作するときにパスワードの入力が求められます。パスワードによるタッチパネル保護により、いたずらなどによる誤動作、第三者による操作を防ぐことができます。

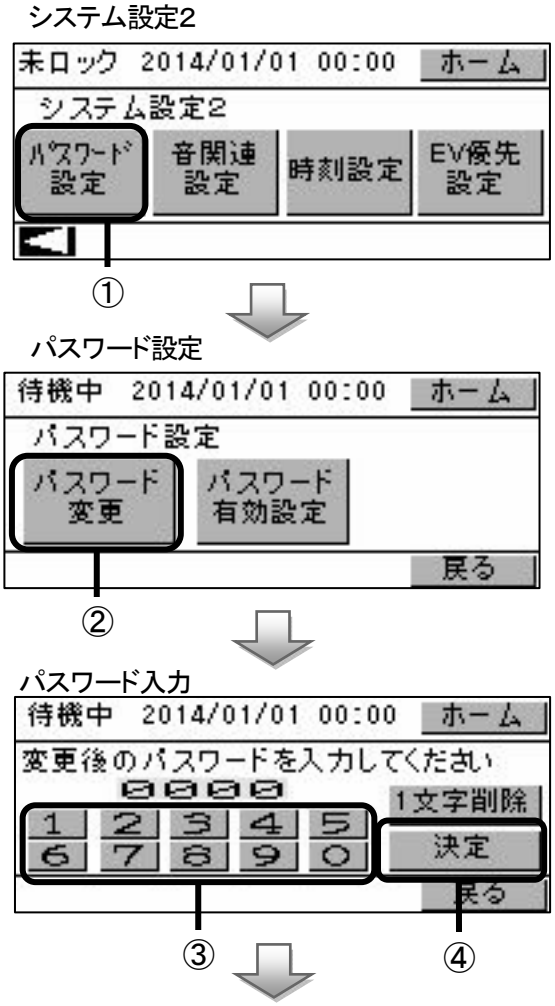
- [充電開始]ボタン(青ボタン)、[充電停止]ボタン(緑ボタン)にパスワードはかけられません。

① **パスワード設定画面に切り替える。**
システム設定 2 画面で、[パスワード設定] ボタンをタッチします。

② **パスワード入力画面に切り替える。**
[パスワード変更] ボタンをタッチします。

③ **パスワードを入力する。**
4 桁の数字を入力してください。
数字キーを押すと、新しいパスワードが入力されます。

④ **入力したパスワードを保存する。**
[決定] ボタンをタッチします。

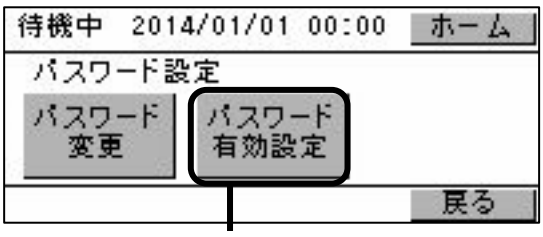


Memo

設定したパスワードの記載欄としてお使いください。

⑤ **パスワード有効設定画面に切り替える。**
パスワード設定画面に戻り、[パスワード有効設定] ボタンをタッチすると、⑥の画面が表示されます。

パスワード設定

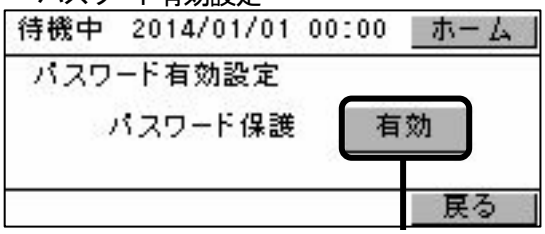


⑤

⑥ **パスワードを有効にする。**
[有効] ボタンをタッチする。
※4 桁のパスワードを設定してから、[有効] にしてください。(→48 ページ)
パスワード有効設定を無効にする場合は、同一の手順で無効にしてください。

無効　　有効

パスワード有効設定



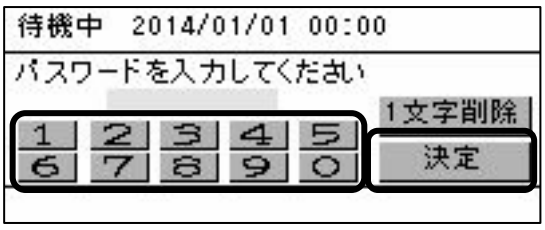
⑥

- 工場出荷時は[無効]になっています。

パスワード有効時の操作

パスワード設定をすると、タッチパネルのバックライト消灯からの復帰時に、パスワードの入力が必要になります。
パスワード入力画面が表示されたら、設定した4桁のパスワードを入力し、[決定] ボタンをタッチしてください。

パスワード入力



パスワード設定を忘れた場合

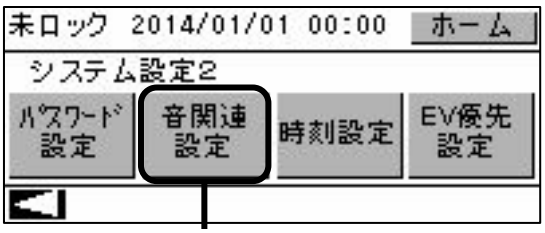
設定したパスワードを忘れた場合は、「パスワードを忘れた」(→59 ページ)を参照ください。

音関連設定

充電および給電の開始／終了時に音でお知らせします。

① **音関連設定　画面に切り替える。**
システム設定 2 画面で、[音関連設定] ボタンをタッチする。

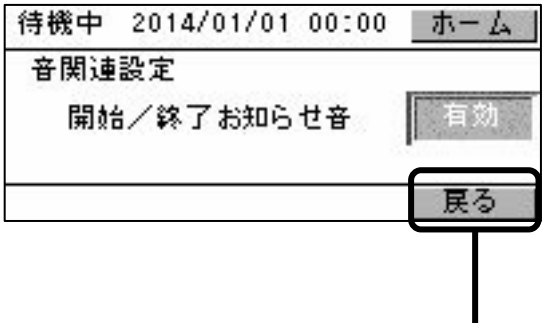
システム設定2



①

② **お知らせ音の有効／無効を設定する。**
[有効] ボタンをタッチする。
お知らせ音を無効にする場合は、同一の手順で無効にしてください。

音関連設定



②

無効　　有効

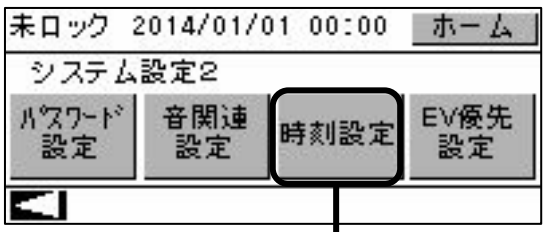
- 工場出荷時は[有効] ボタンになっています。
- 音の大きさは変更できません。
- タッチパネルをタッチしたときの音やエラーを検出したときの音は消すことができません。

時刻設定

現在の日時を設定できます。
現在時刻は、長く使用されるとずれることがあります。定期的に修正することをお勧めします。
タイマー運転中に時刻を変更すると正しく動作しないため、タイマー運転中は時刻変更をしないでください。

システム設定2

① **時刻設定画面に切り替える。**
システム設定 2 画面で、[時刻設定] ボタンをタッチします。



①

② **現在日時を変更する。**
変更したい 年、月、日、時、分　をタッチし、
[▲／▼] ボタンで変更します。

③ **変更した日時を保存する。**
変更終了後、[決定] ボタンをタッチします。

時刻設定

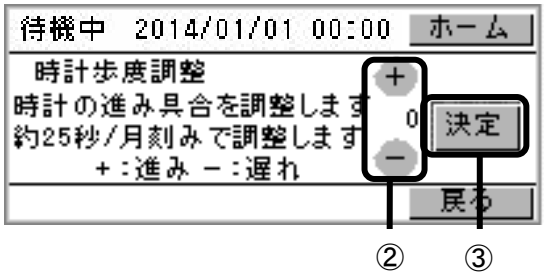
②　②　③

時計歩度調整

本体に内蔵されている時計の進み具合を調整することができます。頻繁に時刻がずれる場合に調整してください。

時刻設定

時計歩度調整



① 時計歩度調整画面に切り替える。

時刻設定画面から[調整]をタッチします。

② 歩度調整値を変更する。

＋、－ ボタンで設定したい値に合わせます。

※ −5～+5 の範囲で設定することができます。

※ 設定値は 1 つ変更するごとに約 25 秒/月刻みで進み具合が変わります。

③ 変更した調整値を保存する。

変更終了後、[決定] をタッチします。

- 工場出荷時は[0]になっています。
- 内蔵時計の特性により、約 25℃を中心にして温度が高くても低くても遅れます。

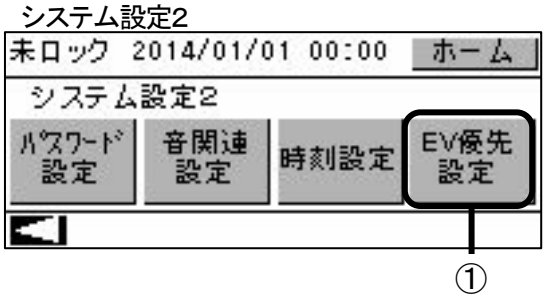
ＥＶ優先設定

車両から操作する機能をお使いいただく場合は、EV優先設定を有効にしてお使いください。
EV優先設定を無効にすると、車両からの操作で充電に切り替わらないようにできます。

① **EV優先設定画面に切り替える。**
システム設定 2 画面で、[EV優先設定] ボタンをタッチします。

※ コネクタがロックされている場合、[EV優先設定] ボタンをタッチすることはできません。

システム設定2

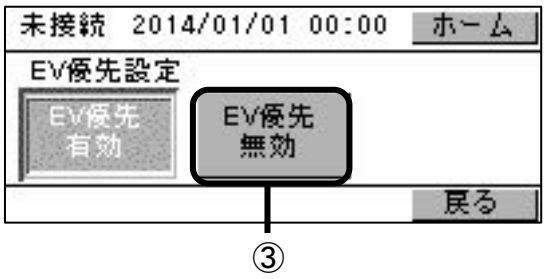


② **EV優先を有効にする。**
[EV優先有効] ボタンをタッチする。

EV優先設定

③ **EV優先を無効にする。**
[EV優先無効] ボタンをタッチする。

EV優先設定



- 工場出荷時は[有効]になっています。

データを表示する

充電電力および給電電力に関する統計データ(日間、月間、年間)を表示します。
※ 本データは目安として参照ください。

① **データ表示　画面に切り替える。**
システム設定１で[データ表示] ボタンをタッチします。

② **データを選択する。**
[充電電力量] ボタン、または[給電電力量] ボタンをタッチします。

③ **データ表示期間を選択する。**
確認したい期間を[日間]、[月間]、[年間]からタッチして選択します。

④ **データ表示形式を選択する。**
[一覧] ボタン、または[グラフ] ボタンをタッチすると、 統計データが表示されます。

日間	1 日の時間ごとの電力値(kWh)および累計値を表示します。 当日より 7 日前までのデータを表示します。
月間	1 ヶ月の日ごとの電力値(kWh)および累計値を表示します。 当月より 1 カ月前までのデータを表示します。
年間	1 年の月ごとの電力値(kWh)および累計値を表示します。 当年より 2 年前までのデータを表示します。

その他の操作

電源を入れる

中継ボックスのブレーカ MCCB4→MCCB3 の順に ON してください。(→14 ページ)
本体に電源が入り、タッチパネルにホーム画面が表示されます。

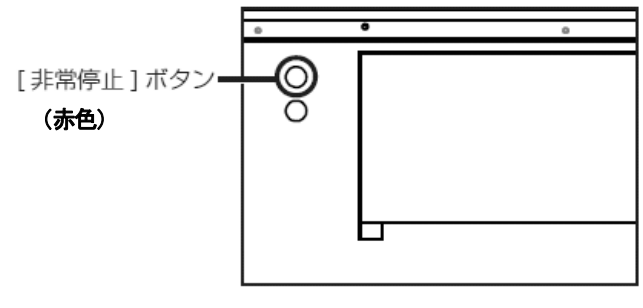
電源を切る

※通常は電源を切らないでください。電源を切った状態で長期間(1 ヶ月程度)放置しますと、内蔵電池の電圧が低下し、停電時にご使用になれない場合があります。
※電源を切ると、「パスワード」、「パスワード有効設定」、「音関連設定」、「EV優先設定」が初期化されます。

1) 本体背面の[非常停止] ボタン(赤色)を押す。
[非常停止] ボタン(赤色)は押されたままの状態になります。
2) 本体前面の[充電停止] ボタン(緑色)をタッチパネルが消灯するまで押し続ける。
本体の電源が切れます。
タッチパネルの画面に、もう一度触れ、画面が現れないことを確認してください。
※ 画面が表示された場合はもう一度[充電停止] ボタン(緑色)をタッチパネルが消灯するまで押し続けてください。
※ 再度非常停止ボタン(赤色)を押し、元の状態に戻してください。

非常停止する

前面操作パネルで停止ボタンを押しても停止しない場合、非常停止ボタンを用いることで、動作を停止させることができます。
※給電中に非常停止ボタン(赤色)を押した場合は一時的に停電し、系統に切り替わります。
本体背面の非常停止ボタン(赤色)を押すと、中継ボックスのブレーカ MCCB3、MCCB4 が遮断され、EVパワー・ステーション本体の運転が停止します。但し、停電時に非常停止ボタンを押しても MCCB3 は遮断されません。
(尚、内蔵バッテリーにより約 10 分間表示器が点灯しておりますが、約 10 分経過すると、本体電源が OFF となり表示器も消灯されます。)



本体裏面

非常停止から復帰する

非常停止ボタンを解除する場合は、非常停止ボタンが押されたままの状態になっていますので、再度非常停止ボタンを押し、元の状態に戻してください。
中継ボックスのブレーカが遮断されているので、MCCB3→MCCB4 の順にOFFしてから MCCB4→MCCB3 の順に ON してください。(→14 ページ) 本体に電源が入り、起動します。

システムリセットをする

EVパワー・ステーションを初期化するために、システムリセットをすることができます。
※システムリセットを行うと「パスワード」、「パスワード有効設定」、「音関連設定」、「EV優先設定」およびシステムリセット前までの「充電・給電データ」が初期化されます。

1） 本体背面の[非常停止] ボタン(赤色)を押す。
中継ボックスのブレーカが遮断されます。ブレーカのハンドルは ON と OFF の中間の位置で止まります。
[非常停止] ボタン(赤色)は押されたままの状態になります。

2） 本体前面の[充電停止] ボタン(緑色)をタッチパネルが消灯するまで押し続ける。
本体の電源が切れます。
タッチパネルの画面に、もう一度触れ、画面が現れないことを確認してください。
※ 画面が表示された場合はもう一度[充電停止] ボタン(緑色)をタッチパネルが消灯するまで押し続けてください。
※ タッチパネルが消えない場合は、本体背面の[非常停止] ボタン(赤色)が押されたままの状態になっているかを確認してください。

3） 再度[非常停止] ボタン(赤色)を押す。
[非常停止] ボタン(赤色)が元の状態にもどります。

4） 中継ボックスのブレーカを MCCB3→MCCB4 の順にOFFしてから MCCB4→MCCB3 の順に ON してください。(→14 ページ)
本体に電源が入り、起動します。

こんなときは

コネクタがロックできない

車両の状態によってはコネクタロックできないことがあります。以下の項目を確認してください。

- 車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（POWER OFF）になっていること。
- 普通充電コネクタが接続されていないこと。
- 車両が V2H システムや急速充電器に接続できる状態になっていること。

コネクタが取り外せない

- 充電動作または給電動作が停止しても、コネクタはロックされた状態のままとなります。
  コネクタを取り外す際は、「車両から取り外す」（→21 ページ）を参考にロックの解除を行ってください。
- コネクタが凍結した場合は、無理に抜こうとせず、充電・給電を停止し、ロックを解除後にぬるま湯で解凍してください。コネクタや充電口の水分は乾いた布などで拭き取ってください。
  解氷剤、凍結防止剤は使用しないでください。

充電できない

- コネクタを車両にロックしないと充電は行えません。「車両に接続する」（→19 ページ）を参考にコネクタのロックを行ってください。
- 車両のパワースイッチが ON したままになっていると、充電動作は開始されません。パワースイッチを OFF し、充電を開始してください。
- 車両が異常を検知している場合充電できないことがあります。
- 車両の充電率（バッテリ残量）が高いと、すぐに充電が止まることがあります。満充電にしたい場合は、満充電機能をお使いください。（→45 ページ）
- 車両によっては、充電する際の充電電力が少ない場合、車両側で充電を停止する場合があります。車両の仕様による動作ですので安心してご使用ください。

充電時間が長い・充電電力が小さい

- EVパワー・ステーションは家庭の契約電力値を超えないように充電電力を制御しています。そのため、家庭の消費電力が大きい場合は充電電力が小さくなり充電時間が長くなります。家電製品の運転状態をご確認いただき、不要な家電製品を「切」にするか、運転している家電製品の少ない時間帯に充電してください。
- 車両の充電制御により充電電力が小さくなることがあります。

充電時にアンペアブレーカが頻繁に落ちる

- 充電には最大 6kW の電力が必要です。その他ご家庭内でご使用になる電気機器も含めた電力契約が必要です。
- 充電動作時にブレーカが落ちる場合、設置時の初期設定が適切でない可能性があります。販売店にご相談ください。
- インテリジェント充電制御非対応車両はの、充電電力の調整ができないためブレーカが落ちやすくなっています。家庭の消費電力にご注意ください。

設定通りに充電が止まらない

- 車両のタイマー充電、即充電が有効の場合、EVパワー・ステーションの満充電設定が無効でもタイマー終了時間を超えて充電されます。車両のタイマー充電設定を解除してください。
- 車両によっては、満充電設定を行っていても満充電になる前に充電を停止することがあります。また、満充電設定していないのに、満充電付近まで充電する場合があります。車両の仕様による動作ですので安心してご使用ください。

満充電にならずに充電が止まる

- 本機は、車両が推奨するバッテリー容量まで充電すると、停止するように設定されています。満充電にしたい場合は、満充電機能をお使いください。（→45 ページ） なお、満充電は設定を変更するまでその状態を保持します。
- タイマー充電の場合、満充電になっていなくてもタイマー終了時間で充電を終了します。
- 車両によっては満充電設定を行っていても満充電になる前に充電を停止することがあります。車両の仕様による動作ですので安心してご使用ください。詳しくは、車両販売店にお問い合わせください。

満充電設定していないのに満充電になる

- 車両によっては、満充電設定していないのに、満充電になる場合があります。車両の仕様による動作ですので安心してご使用ください。詳しくは、車両販売店にお問い合わせください。

給電できない

- 本機の給電機能に対応していない車両の場合は、車両側のプログラムを変更する必要があります。車両のプログラムを変更されていない場合または、変更されたか不明な場合は、車両販売店へお問い合わせください。
- 本機の給電機能に対応していない車両で給電操作を行うと、すぐに給電が終了します。
- コネクタを車両にロックしないと給電は行えません。「車両に接続する」（→19 ページ）を参考にコネクタのロックを行ってください。
- 車両のパワースイッチが ON したままになっていると、給電動作は開始されません。パワースイッチを OFF し、給電を開始してください。

- 車両の設定によっては、給電が開始されない場合があります。詳しくは車両販売店にお問い合わせください。
- 車両の充電率が最低確保充電率以下である場合は、充電を行ってから給電してください。
- 車両が異常を検知している場合給電できないことがあります。
- 給電開始時に本機の電力供給能力を超える電力を使用している場合、給電開始できません。使用電力を本機の供給能力以下の状態にすると 10 分程度で自動的に車両からの給電が開始します。
- 車両によっては、満充電状態まで充電した直後に給電開始した場合、車両側で接続を中断することがあります。数分待ってから再度給電操作を行ってください。

給電が停止する

- 本機は車両のバッテリー容量がゼロになることを防止するため、給電を車両が推奨するバッテリー残量で停止するように初期値が設定されています。残量 10%まで給電するように設定することが可能です。(→46 ページ)
- 車両によっては、最低確保充電率を設定しても、車両メーカーの推奨値が適用されることがあります。
- 使用電力が多くなり、本機の電力供給能力を超えた場合、自動的に車両からの給電を停止します。(→11 ページ) 使用電力を本機の供給能力以下の状態にすると 10 分程度で自動的に車両からの給電が開始します。但し、停電時は、自動的に再開しません。すぐに給電を再開させる場合は、タッチパネルの[給電停止]をタッチし、給電動作を停止した後に、電気機器の使用電力を下げてから給電を再開させてください。(タイマー給電だった場合この操作を行うとタイマー動作がキャンセルされ、手動給電として再開します)
- 定格出力内であっても、突入電流が大きい電気機器を使用した場合、一時的に定格出力範囲を超え、給電を停止する場合があります。
- 給電開始後に車両からの操作をした場合、給電動作を停止します。再度給電する場合は、車両からの操作を取り消してください。(→35 ページ)
- 車両によっては、給電でご使用される電気製品の負荷(合計)が小さい(約 200W以下)場合、15 分程度で停止する事があります。車両の仕様による動作ですので安心してご使用ください。再開する場合は再度給電操作を行ってください。

電気機器の動作が不安定になったり、停止したりする

- 本機の定格出力を超えるまで電気機器を接続・運転すると、動作が不安定になったり、停止したりする場合があります。例えば、照明がちらついたりテレビの電源が切れたりすることがあります。
- 2系統の出力の内、一方に負荷が集中する場合は販売店にご相談ください。
- また、定格出力内であっても、起動時に大きな電力を消費する機器を使用した場合、一時的に定格出力範囲を超え、動作が不安定になったり、停止したりする場合があります。
- 電気機器の運転状態をご確認いただき、不要な電気機器を「切」にするか、消費電力の大きい電気機器のご使用はお控えください。
- 電気機器の消費電力については、電気機器の取扱説明書を確認、またはメーカーにお問い合わせください。

- 途中で電源が切れると困る機器、起動時に大きな電力を消費する機器、消費電力が大きな機器を使用される場合はご注意ください。(→12 ページ)
- UPS(無停電電源装置)をご使用になる場合は、感度調整機能を搭載した製品をご使用ください。UPS が頻繁に動作する場合は感度設定値を低く設定して下さい。設定方法は UPS の取扱説明書を参照ください。

車両 からの給電時に、LED 照明がちらつく

- 調光器付きの LED 照明を使用している場合にちらつきが発生することがあります。
- ドライヤー、掃除機、電子レンジなどを使用すると、電圧の変動が発生する場合があります。その影響を受けちらつき、照度低下が発生することがあります。

充電・給電操作をしてから実際に動作するまでに時間がかかる

- 車両によっては、車両との接続の取り決めにより充電・給電操作を行ってから動作するまでに数秒のタイムラグが発生します。タイマーによる動作時も同様にタイムラグが発生します。

給電中なのに電力メーターが動いている

- 車両からの給電中でも、EVパワー・ステーションの動作用として約 5W の系統電力を使用するため、電力メーターが動きます。停電時は、EVパワー・ステーション内蔵のバッテリーを使用し動作します。

機器から異音が発生する

次の音は本機の動作音です。異常ではありません。

発生音	発生部位	発生時期	発生源
カチッ	本体	給電切り替え時	本体内蔵の機構部品の動作音です。
ブーン	本体	給電中、充電中	冷却ファンの音です。
ブーン	トランスユニット	給電中	トランスユニット内蔵のトランスの動作音です。
ガシャン	中継ボックス	給電切り替え時	中継ボックス内蔵の機構部品の動作音です。
ジー	中継ボックス	常時	かすかな音ですが電磁機器が発する音です。

電子部品の発する高周波音が、稀に聴覚感度の高い方に不快に感じることがあります。
本体の設置条件によっては、冷却ファンの音が大きく聞こえることがあります。
その他の場合は、お客様相談室までお問い合わせください。

パスワードを忘れた

- 販売店もしくはお客様相談室に連絡してください。販売店もしくはお客様相談室からの指示に従い、パスワード表示画面を確認してください。パスワード確認用の 4 桁の数字が表示されますので、その数字を販売店もしくはお客様相談室へ連絡してください。表示された数字は、そのままパスワードとしては、ご使用にはなれません。

タッチパネルの表示が見えにくい

・ タッチパネルは、低温時に液晶の反応が遅くなることや、表示が見えにくい場合があります。また、直射日光下でも、表示が見えにくい場合があります。

中継ボックスのブレーカが ON できない

・ 非常停止ボタン(赤色)が押されたままになっている可能性があります。非常停止ボタン(赤色)を押し、元の状態に戻してください。
・ ブレーカのレバーが中間で止まっている場合は、一旦レバーを OFF にしてから ON してください。(→14 ページ)
・ 非常停止ボタン(赤色)が戻っているのにブレーカが ON できない場合は販売店もしくはお客様相談室に連絡してください。

停電を検知しました と表示されたとき

・ EVパワー・ステーションが停電を検知すると表示されます。EVパワー・ステーションが停電復旧を確定するまで(約 5 分間)手動給電以外の充電・給電操作は行えません。
・ 停電時に待機状態または未接続状態の場合、約 10 分でEVパワー・ステーションの電源が切れます。給電したい場合は、「停電時に使用する」(→36 ページ)を参考に操作を行ってください。

停電中及び復旧後 5 分間は給電停止できません と表示されたとき

・ EVパワー・ステーションが停電を検知しているか、停電復旧後約 5 分以内に給電停止しようとした場合に表示されます。[強制終了]をタッチすると給電を停止しますが、宅内が停電する可能性があります。(→38 ページ)

エラーメッセージが表示されたとき

・ エラーメッセージが表示されたときは、次の表に従って処置してください。それでも回復しない場合は本製品の故障が考えられます。お客様相談室に連絡していただく際には、画面に表示されるエラーメッセージ(番号)をご連絡ください。

エラーメッセージの内容と処置

メッセージ	処置
(1～5,15,16,41,45,50～53,71～96) 本体に問題が発生しました。お客様相談室へご連絡ください。	「システムリセットをする」(→55 ページ)を行ってください。解決しない場合は、お客様相談室に連絡してください。
(6～10,42,46,58) 一時的に停止しています。この表示が消えない場合はお客様相談室にご連絡ください。	しばらくお待ちいただくと解消します。 解消しない場合は、「システムリセットをする」(→55 ページ)を行ってください。解決しない場合は、お客様相談室に連絡してください。

メッセージ	処置
(11) 本体内ブレーカが遮断しました。お客様相談室へご連絡ください。	お客様相談室に連絡してください。
(12) コネクタがロックしていません。コネクタを挿し直してください。	「車両に接続する」(→19 ページ)を参考にコネクタを挿し直してください。
(13) 非常停止ボタンが押されました。	「非常停止から復帰する」(→55 ページ)を参考に復帰してください。
(14) 内蔵電池容量が低下しています。お客様相談室にお問い合わせください。	停電時に動作できない可能性があります。「システムリセットをする」(→55 ページ)を行ってください。解決しない場合は、お客様相談室に連絡してください。
(21) 車輌と接続できませんでした。	車両の状態やコネクタの接続状態を確認してください。 一度、車両から充放電コネクタを取り外し、車両の電源を一度 OFF してから再度操作をお試し下さい。詳細は車両取扱説明書をご確認下さい。
(22) 車輌から接続を中断されました。	車両の状態を確認してください。 ・車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態(POWER OFF)にしてください。 ・車両のタイマー機能(充電やエアコン)を設定していると車両側で接続を中断することがあります。 ・充電の場合、車両の充電率が高すぎると車両側で接続を中断することがあります。 ・給電の場合、車両の充電率が低すぎると車両側で接続を中断することがあります。 ・車両によっては満充電まで充電した直後に給電を行うと車両側で接続を中断する場合があります。数分待ってから再度給電操作を行ってください。 ・自動ロック機能に対応していない車両の可能性があります。
(23～26) 車輌と接続できなくなりました。コネクタの接続を再確認してください。	コネクタを一度外し、「車両に接続する」(→19 ページ)を参考にコネクタを挿し直してください。
(27) コネクタのロック解除ができません。お客様相談室にご連絡ください。	「システムリセットをする」(→55 ページ)を行って、コネクタを外してください。 解決しない場合は、お客様相談室へ連絡してください。
(44,48) 機器保護のため停止中。この表示が消えない場合はお客様相談室にご連絡ください。	しばらくお待ちいただいても解決しない場合は、販売店もしくはお客様相談室に連絡してください。
(54,55,59～66,110) 過負荷のため停止しました。	機器を保護するため停止しています。消費電力の大きい電気機器の使用を控えるとおよそ 10 分で再度給電が始まります。
(56,57) 給電ができません。お客様相談室へご連絡ください。	販売店もしくはお客様相談室に連絡してください。
(101～106) 中継ボックスに問題が発生しました。お客様相談室へご連絡ください。	「システムリセットをする」(→55 ページ)を行ってください。解決しない場合は、お客様相談室に連絡してください。
(107) 中継ボックスの配線をご確認ください。	「システムリセットをする」(→55 ページ)を行ってください。解決しない場合は、お客様相談室に連絡してください。

メッセージ	処置
（108,109） 中継ボックスのブレーカをご確認ください。	中継ボックスのブレーカを一度 OFF した後、再度 ON してください（→14 ページ）。

- お客様相談室にご連絡頂く場合は、エラーメッセージの番号をお伝えください。
- お客様相談室の連絡先は 65 ページを参照ください。

充放電コネクタを本体または車両に固定する

- コネクタをコネクタホルダまたは車両の充電口に挿し込み、固定ボタンを押し込んだ状態で固定ボタンの穴に錠をすることで、固定することができます。錠は市販品をご使用ください。
  車両の場合、自動ロック機能に対応していないとエラー発生します。

しばらく使用しないとき

- 本体への電源供給ブレーカを「OFF」にした状態で長期間（1 ヶ月程度）放置しますと、内蔵電池の電圧が低下し、停電時にご使用になれない場合があります。そのため、定期的に（2 週間毎に 1 度を目安）に本体への電源供給ブレーカを「ON」にしてください。（→14 ページ）

風水害または地震時の対応

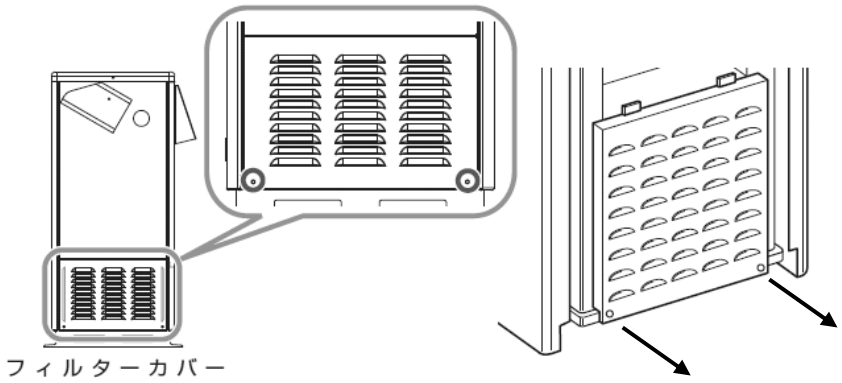
- 風水害時に水没の可能性があるときは、あらかじめ運転を停止した後、中継ボックスのブレーカを「OFF」にしてください。また、水没した場合には、運転を停止した後、中継ボックスのブレーカを「OFF」にし、お買い上げの販売店までご連絡ください。（→14 ページ）
- 地震でEVパワー・ステーションが被災した場合は、販売店までご連絡ください。

点検とお手入れ

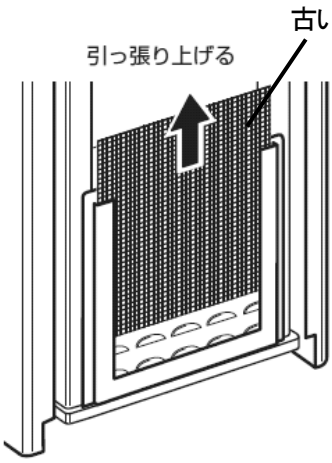
フィルターの交換

本体のフィルターは消耗品です。性能を維持するため、1 年に1度交換してください。フィルターの購入については、お客様相談室にお問い合わせください。

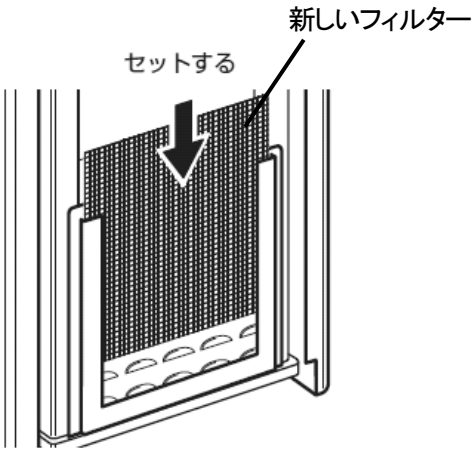
① 本体下側のフィルターカバーのつまみネジ 2 本を取り外す（ネジの紛失にご注意ください）。



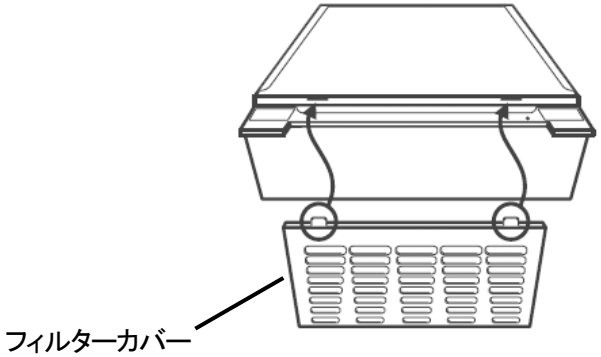
② フィルターをホルダから取り外す。



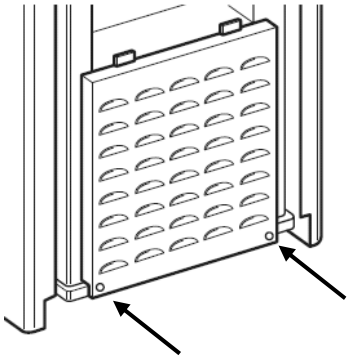
③ 新しいフィルターをセットする。



④ フィルターカバーを取り付ける。



⑤ 2 本のつまみネジを締め、フィルターカバーを固定する。



内蔵電池の交換

本体に内蔵している鉛蓄電池は長期使用により、性能が低下する場合があります。性能が著しく低下すると、停電時にご使用になれない場合があります。設置後、5 年後を目処に交換を推奨します。詳しくはお客様相談室にお問い合わせください。

保証とアフターサービス

保証について

保証内容については保証書に記載しています。
保証書は販売店よりお渡ししますので、販売店名、設置工事完了日の記入をお確かめになり、販売店が発行する工事完了報告書（またはそれに準ずる工事完了日記載の書類）といっしょに大切に保管してください。
上記の記載がない場合、無効となることがあります。

アフターサービスについて

- ご不明な点や修理に関するご相談
  ご不明な点や修理に関するご相談は、お客様相談室にお問い合わせください。
  製品以外の、工事等に関するお問い合わせは販売店にご連絡ください。
- お客様相談室にお問い合わせされるとき
  次のことをお知らせください。
  - 装置の型式と製造番号 (Serial.No.)
    ※保証書添付のラベル、もしくは本体吸気口上部添付のラベルをご確認ください。
  - 設置工事完了日
    ※保証書添付のラベルをご確認ください。
  - 故障の場合、故障の状況（エラーメッセージ番号、故障発生時の運転状況、発生日時と天候など）
- 補修用性能部品の最低保有期間
  - 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
  - 補修用性能部品の最低保有期間は製造打ち切り後 10 年です。

製品に関するお問い合わせ

- 本製品の仕様に関するお問い合わせやご相談は下記窓口にご連絡ください。

ニチコン株式会社　お客様相談室

TEL. 0120－215－023 （フリーダイヤル）

受付時間 9:00 ～ 17:00 月曜日～金曜日（祝日・弊社休業日を除く）

機器仕様

本体仕様

		標準仕様	防錆仕様	寒冷地仕様
環境	設置場所	屋外(注1)		
	標高	最大 2,000m		
	周囲温度	−10℃～＋40℃		−30℃～＋40℃
	周囲湿度	30～90% （結露なきこと）		
	運転音	約 45dB （エアコン室外機相当）(注2)		
表示操作器		3.4 型モノクロ液晶タッチパネル(注3)		
充電部	入力電圧・電流	単相 2 線式、AC200V ± 10%、50 ／ 60Hz ± 2%、30A 未満		
	出力電圧	DC450V 未満		
	出力電流	DC0 ～ 19A(注4)		
	効率	充電効率最大 90%		
給電部	入力電圧	最大入力電圧DC450V		
	出力電圧	単相 3 線式 N−L 間 AC100V ± 6%、L1−L2 間 AC200V ± 6%		
	周波数	50 ／ 60Hz ± 2%		
	出力電流	片相 40A（2 相合計 60A）以下/L1−N・L2−N 間(注5)		
消費電力(注6)		給電時 約 5W 充電時 約 5W 待機時 約 20W		
絶縁耐圧		AC2,000V ／1 分間（主回路一括～対地間）		
絶縁抵抗		DC500V 絶縁抵抗計にて 50M Ω 以上		
充放電コネクタ		JEVS G 105−1993 準拠、 CHAdeMO Rev.1.0 準拠 約 3.7m 約 3kg（標準）/約 7.5m 約 5kg（オプション）、最大定格電流 60A		
本体寸法		650(W) × 780(H) × 350(D)mm （突起部を除く寸法）		
質量		70kg （充放電コネクタの重量含まず）		72kg （充放電コネクタの重量含まず）
本体性能		屋外設置仕様、強制空冷式		
防錆対策(注7)		×	○	○
寒冷地対策(注8)		×	×	○

中継ボックス仕様

設置場所	屋内
入力電圧･電流	単相 3 線式、AC200V ± 10%、50 ／ 60Hz ± 2%、60A 以下
系統切り替え時間	約 1ms
寸法･質量	710(W)× 370(H)×150(D)mm、10kg

トランスユニット仕様 (注9)

設置場所	屋外
周囲温度	-30℃～+40℃
寸法･質量	290(W)× 415(H)× 350(D)mm、55kg

注１ 受信障害となる場合がありますので、ラジオ・テレビ・アマチュア無線等の電波を利用する機器とは 3m 以上離して設置してください。岩礁隣接地域、重塩害地域では使用できません。温泉等の腐食性ガスのある環境では機器の動作に影響を及ぼす可能性があります。事前にご確認ください。

注２ ＥＶパワー・ステーションから発生する音について
- 充電中や家庭への給電中の音はエアコンの室外機音程度ですが、敏感な方は機器の高調波音が気になる場合があります。
- 充電や給電への切り替え時に、本体と中継ボックスの内部リレーが切り替わる音が発生します。
- 中継ボックスからジーという音が発生する場合がありますが、これは交流電源の脈動による音です。設備稼働直後は音が大きい場合がありますが、使用するに従い小さくなっていきます。
- 本体の内部温度が高くなると、本体の排気ファンが高速になり、作動音が大きくなることがあります。

注３ 指定の周囲温度外では表示の応答性やコントラストに支障を及ぼす場合があります。強い紫外線下での使用を避け、過度の加重をかけないようにご注意ください。

注４ 機器の出力値であり、実際の充電出力を保証している数値ではありません。契約電力や家庭への負荷および車両の充電率によっても異なります。

注５ 最大電力が 2 相合計 60A 以下 (200V) となるように負荷制限制御が作動します。各ご家庭の機器の効率、家庭用配線接続状況によって規定の電力がとれず、実質 6kW の出力がとれない場合がありますのでご注意ください。

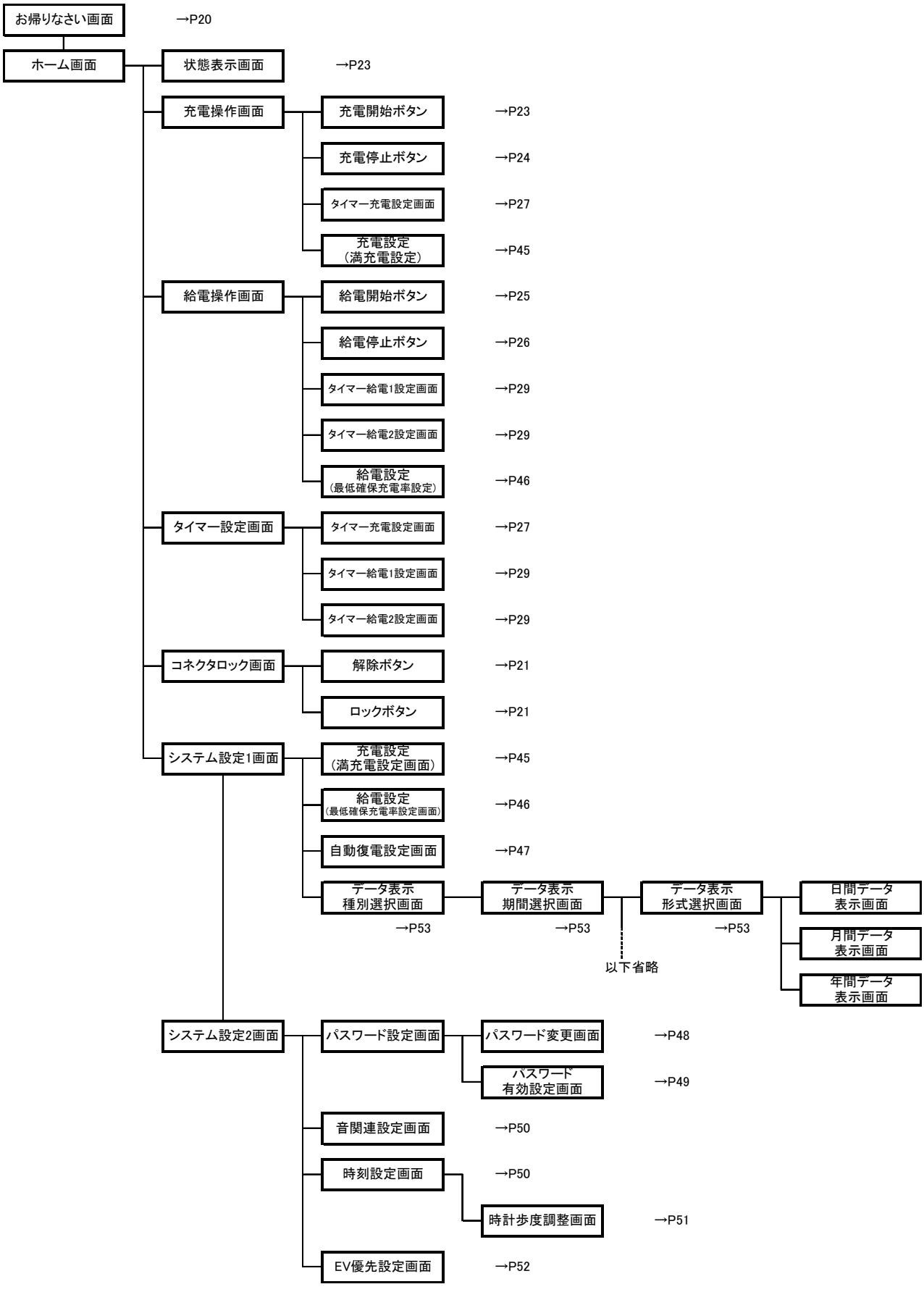
注６ 系統電力の消費電力値です。
寒冷地仕様品は、低温時にタッチパネルの表示薄れ防止用ヒータの動作により、消費電力が 20W 大きくなります。

注７ 防錆対策として「防錆塗装」「防錆ネジ」「防錆対策ファン」「回路基板の防錆処理」を採用しています。防錆仕様品を使用した場合でも、サビの発生に対して万全ではありません。本書に記載している「取扱上のお願い」事項をお守り頂くことで、サビの発生時期を遅らせることができます。

注８ 寒冷地対策として防錆対策(注7)と「タッチパネルの表示薄れ防止ヒータ」を採用しています。低温下においてはタッチパネルの液晶の反応が遅くなることや、表示の一部が薄くなることがありますが故障ではございません。また、寒冷地仕様品であっても、雪の吹込みに対して万全ではありません。吹きさらしとなることを極力回避するような場所に据付けてください。

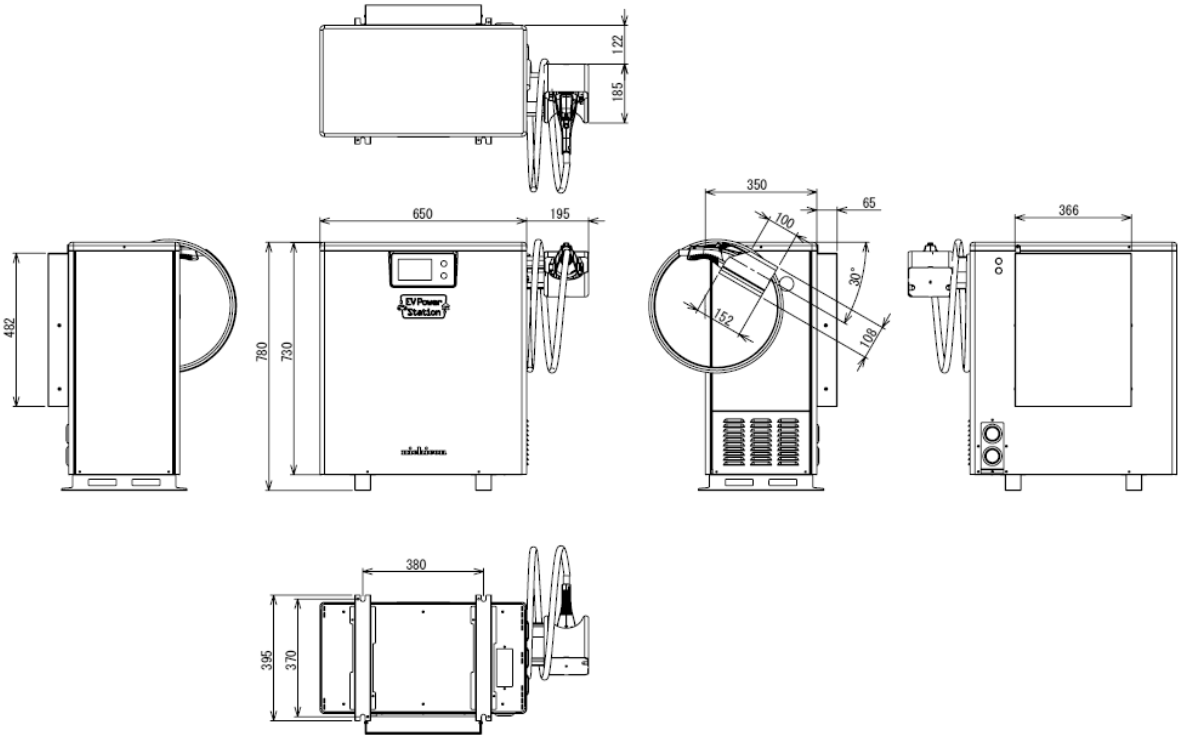
注９ トランスユニットは、あらかじめ防錆対策と寒冷地対策を施してあります。

本体タッチパネル操作画面構成

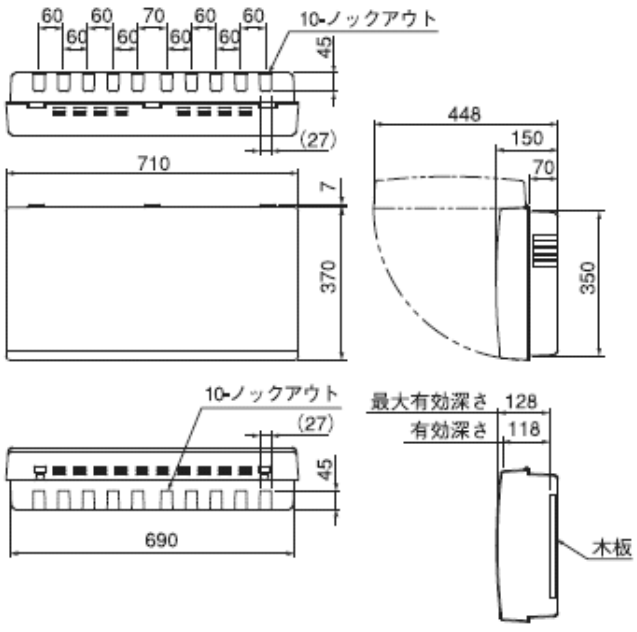


機器外観図　（数値単位は mm　 但し、参考値）

本体



中継ボックス



トランスユニット（高機能モデル）